



OPERA^{オペラ} 2011/2012シーズン



新国立劇場

2011年1月

Contents

オペラ芸術監督 尾高忠明	2
2011/2012シーズン オペラ ラインアップ	3
イル・トロヴァトーレ 新制作	4
サロメ	9
ルサルカ 新制作	14
こうもり	19
ラ・ボエーム	25
沈黙 新制作	30
さまよえるオランダ人	36
オテロ	41
ドン・ジョヴァンニ	46
ローエングリン 新制作	51
平成23年度公演	56
平成23年度 新国立劇場 こどものためのオペラ劇場 パルジファルとふしぎな聖杯	57
平成23年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 蝶々夫人	61
平成23年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演 愛の妙薬	64
平成23年度 新国立劇場 地域招聘公演 仙台オペラ協会 なりすな 鳴砂	67
尾高忠明芸術監督による特別企画 コジ・ファン・トゥッテ〈演奏会形式〉	70
公演一覧(1997.10～2011.6)	72

2011/2012シーズン オペラ



オペラ芸術監督
Artistic Director (Opera)

尾高忠明
Otaka Tadaaki

再演演目については、限られた上演可能演目リストからの難しい選出でしたが、バルツァさんが登場する『こうもり』など、充実したラインアップに仕上げることができました。僭越ではありますが、オペラの指揮を控えていた私の肩の調子も良好なので『サロメ』の指揮は自身でと思っています。

新国立劇場オペラ2011/2012シーズンに、どうぞご期待ください。

2011年1月

〈プロフィール〉

1947年鎌倉生まれ。桐朋学園大学で齊藤秀雄氏に指揮法を師事したほか、作曲、理論、ホルンを学んだ。70年桐朋学園大学を卒業、第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞。71年にNHK交響楽団を指揮してデビュー。72年オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立アカデミーに留学、ハンス・スワロフスキーに師事、さらにオペラをシュパンナーゲルに学んだ。

74年～91年東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者、81年～86年札幌交響楽団正指揮者、92年～98年読売日本交響楽団常任指揮者を務めた。84、89年東京フィルハーモニー交響楽団、93、97年には読売日本交響楽団のヨーロッパ公演を成功に導いた。87年にBBCウェールズ交響楽団首席指揮者に就任、翌年には同団を率いてロンドン・プロムスにデビューした。英国内はもとよりヨーロッパ各地、ロシア、そして2度の日本公演と北米公演を行い好評を博した。ロンドン・サンデー・タイムズ紙は、「オーケストラとの8年間、彼はウェールズで奇跡を行った」と書いている。96年からは桂冠指揮者となり、引き続き数多くの指揮を行っている。

95年には紀尾井シンフォニエッタ東京のミュージカル・アドバイザー／首席指揮者に就任、2000年には同団初のヨーロッパ・ツアーを敢行、オランダ、オーストリア各地で絶賛された。また1998年には札幌交響楽団ミュージック・アドバイザー／常任指揮者に就任、2001年10月、英国ツアーをロンドン、バーミンガム、エディンバラほかで全7公演、音楽監督就任後の05年9月には韓国公演を行い大絶賛を博した。

その他、国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、バーミンガム市交響楽団、ハレ管弦楽団、ボーンマス交響楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ストラズブル・フィルハーモニー管弦楽団、バンベルク交響楽団、ワルシャワフィルハーモニー管弦楽団、オスロ交響楽団、ベルゲンフィルハーモニー管弦楽団、メルボルン交響楽団、シドニー交響楽団、オレゴン交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団等世界各地のオーケストラへ客演している。

オペラにおいては、1977年の二期会公演『フィデリオ』をはじめ、80年代には同じく二期会による『こうもり』『トスカ』『タンホイザー』、関西二期会『カルメン』『魔弾の射手』、民音オペラ『蝶々夫人』、91年に英国のウェールズ・ナショナル・オペラ『サロメ』、98年には読売日本交響楽団でコンサート形式『ピーター・グライムズ』など数多くの公演を指揮している。2008年9月には札幌交響楽団でコンサート形式の『ピーター・グライムズ』を指揮、各方面から高い評価を得た。

また武満徹、細川俊夫、松村禎三、三善晃など日本人作曲家の作品の初演も数多く手掛けている。レコーディングにも精力的で、これまでBBCウェールズ交響楽団等とNimbus、BIS、CHANDOS、カメラータ・トウキョウなどに数多くの優れた録音を残している。近年BBCウェールズ交響楽団と録音した武満作品集、グラズノフの交響曲全集、2007年にリリースした札幌交響楽団とのドヴォルザーク：交響曲第8番／第9番、08年同団とのエルガー：交響曲第3番／行進曲『威風堂々』第6番（ペイン補完）のアルバムはいずれも高い評価を得ている。

1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号を、ウェールズ大学より名誉博士号を、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。さらに99年には英国エルガー協会より、エルガー音楽の普及に貢献したとして、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。

現在、NHK交響楽団正指揮者（2010年1月～）、札幌交響楽団音楽監督（04年5月～）、BBCウェールズ交響楽団（現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団）桂冠指揮者（1996年1月～）、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者（91年4月～）、読売日本交響楽団名誉客演指揮者（98年4月～）、紀尾井シンフォニエッタ東京桂冠名誉指揮者（2003年9月～）を務めるほか、10年1月にメルボルン交響楽団の首席客演指揮者に就任。08年9月からは新国立劇場オペラ芸術参与を、09年9月からは同芸術監督代行を務めた。10年9月に同芸術監督に就任。また東京藝術大学指揮科主任教授、相愛大学音楽学部客員教授として後進の指導に当たっている。

2011/2012シーズン オペラ ラインアップ

〈新制作4 演目／レパートリー 6 演目 合計 10 演目 52 公演〉

2011.10

イル・トロヴァトーレ **新制作**

Il Trovatore | G. ヴェルディ

6回公演

2011.10

サロメ

Salome | R. シュトラウス

5回公演

2011.11

ルサルカ **新制作**

Rusalka | A. ドヴォルザーク

5回公演

2011.12

こうもり

Die Fledermaus | J. シュトラウスⅡ世

5回公演

2012.1

ラ・ボエーム

La Bohème | G. プッチーニ

5回公演

2012.2

沈黙 **新制作**

SILENCE | 松村禎三

5回公演 中劇場

2012.3

さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer | R. ワグナー

5回公演

2012.4

オテロ

Otello | G. ヴェルディ

5回公演

2012.4

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni | W.A. モーツァルト

5回公演

2012.6

ローエングリン **新制作**

Lohengrin | R. ワグナー

6回公演

イル・トロヴァトーレ

2011.10/2 ~ 17

新制作
New production

Il Trovatore

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1853年1月19日 ローマ・アポロ歌劇場

作 曲：ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)

台 本：サルヴァトーレ・カンマラーノ Salvatore Cammarano

宿命に引き裂かれた兄弟の愛憎劇。これぞイタリア・オペラの醍醐味！

演目選定にあたって

尾高芸術監督任期2年目のシーズン開幕を飾る作品に、ヴェルディ中期の三大傑作の一つである『イル・トロヴァトーレ』が登場します。ソプラノ、メゾ・ソプラノ、テノール、バリトンとバランス良く配された登場人物に、強烈な印象を残す珠玉のアリアが与えられ、イタリア・オペラの醍醐味である“声の彩り”を十分堪能できる名作です。物語は、運命に振り回されながらも真摯に生きる姿を描いたドラマチックな愛憎劇です。入り組んだ人間関係が物語を複雑にしていますが、演出のペータースは、物語を真髄から外れることなく、明解でインパクトのある演出で描きだします。ドラマチックな音楽と併せて存分に堪能していただけることでしょう。フラッカーロ、キザール、ヴィテッリ、ウルブリッヒ等の声の饗宴にもご期待ください。

作品解説

ヴェルディ中期の三大傑作の一つで、自ら指揮にあたったローマでの初演は大成功を収めました。スペインの作家グティエレスの『エル・トロバドール』が原作。前作の『リゴレット』同様、ジプシーという社会の主流から差別された者たちと権力をもつ伯爵とを登場させ、それぞれが運命に振り回されながらも真摯に生きる姿を、音楽で見事に描き切っています。それぞれの歌手たちに高いレベルを要求する作品で、一幕レオノーラのアリア〈静かな夜だった〉や、最高の聴きどころともいわれる三幕のマンリーコによる激情のアリア〈見よ、薪の恐ろしい火を〉、ジプシーたちの陽気な合唱アンヴィル・コーラスの〈見よ、夜霧が晴れて〉など、聴きどころ満載。ヴェルディの作品の中でも上演回数が多い傑作です。なお、“トロヴァトーレ”は吟遊詩人のことです。

あらすじ

15世紀のスペイン。アラゴン地方の貴族の家に二人の息子がいた。弟が病弱なことについて、あるジプシーの老婆が嫌疑をかけられ、火焙りにされた。老婆の娘アズチェーナはいつの日か復讐しようとするこの弟を誘拐。それから20年後。ルーナ伯爵は行方不明の弟を捜し続けていた。アズチェーナに育てられた吟遊詩人（トロヴァトーレ）マンリーコは、アラゴン公女の侍女レオノーラと互いに愛し合っている。同じくレオノーラを愛するルーナ伯爵は、マンリーコに決闘を挑む。マンリーコが死んだと勘違いしたレオノーラは修道院入りを決意。修道院前でレオノーラを連れ去ろうとするルーナ伯爵の前に、山中に潜んでいたマンリーコが現れ、レオノーラと二人で逃げ去る。愛しあう二人が結婚式を挙げようとしていると、アズチェーナがルーナ伯爵によって火刑にされると知らされる。結局ルーナ伯爵は、アズチェーナをおとりにマンリーコを捕えることに成功する。レオノーラは我が身と引き換えに愛するマンリーコの助命をルーナ伯爵に願い、承諾を得ると隠し持った毒を仰ぐ。レオノーラは牢獄のマンリーコに命が救われたことを伝えるが、毒がまわり倒れる。レオノーラの裏切りを知ったルーナ伯爵は、マンリーコを処刑する。アズチェーナは、ルーナ伯爵が殺したマンリーコこそ、20年前に消えた弟であると暴露し、復讐を果たす。ルーナ伯爵はただ呆然と佇む。

G. ヴェルディ
イル・トロヴァトーレ

Il Trovatore / Giuseppe Verdi

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	ピエトロ・リッツォ
Conductor	Pietro Rizzo
演出……………	ウルリッヒ・ペータース
Production	Ulrich Peters
美術・衣裳……………	クリスティアン・フロレン
Scenery and Costume Design	Christian Floeren
照明……………	ゲルト・マイヤー
Lighting Design	Gerd Meier
レオノーラ……………	タケシャ・メシェ・キザール
Leonora	Takesha Meshé Kizart
マンリーコ……………	ヴァルテル・フラッカーロ
Manrico	Walter Fraccaro
ルーナ伯爵……………	ヴィットリオ・ヴィテッリ
Il Conte di Luna	Vittorio Vitelli
アズチーナ……………	アンドレア・エディナ・ウルブリッヒ
Azucena	Andrea Edina Ulbrich
フェルランド……………	妻屋秀和
Ferrando	Tsumaya Hidekazu
イネス……………	小野和歌子
Ines	Ono Wakako
ルイス……………	鈴木 准
Ruiz	Suzuki Jun
老ジプシー……………	未定
Un vecchio zingaro	TBA
使者……………	未定
Un messo	TBA
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2011年10/2（日）2：00 10/11（火）2：00
 10/5（水）6：30 10/14（金）2：00
 10/8（土）2：00 10/17（月）6：30
 オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円

【前売開始】2011.6/11（土）

イル・トロヴァトーレ

Il Trovatore / Giuseppe Verdi

指揮：ピエトロ・リッツォ

Conductor : Pietro Rizzo

ローマ生まれ。ヴァイオリンを学んだ後、指揮に転向し、1997年から2000年までヘルシンキのシベリウス・アカデミーで指揮を学ぶ。00年から03年までフィンランド国立歌劇場、03年から07年までエッセン・アールト劇場、06年から09年までヨーテボリ・オペラの首席指揮者を歴任。これまでにメトロポリタン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、フィレンツェ歌劇場、スウェーデン王立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバルなどで活躍。『アイダ』『イル・トロヴァトーレ』『ドン・カルロ』『リゴレット』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』『アンナ・ボレーナ』『チェネントラ』などをレパートリーとしている。『イル・トロヴァトーレ』が初来日、及び新国立劇場初登場となる。



演出：ウルリッヒ・ペーターズ

Production : Ulrich Peters

シュトゥットガルト生まれ。ミュンヘンで演劇と文学、および経営学を学び、博士号を取得。J.P. ボネル、A. エファード、K. ラッセル、M. ベジャール、L. ボンディ、K.E. ヘルマン、A. キルヒナー、C. パイマンなどのもとで演出家としての研鑽を積み、1982年より、オペラ、オペレッタ、ミュージカル、演劇など100作品近くの演出を手がける。オペラ演出デビューは82年フライブルクでの『オルミン』。これまでにシュトゥットガルト、ストラズブル、ミュンヘン、ザルツブルク、ジュネーヴ、ブリュッセルなどで演出を手がける。カイザー・スラウテルン劇場、カールスルーエ市立劇場の首席演出家、アウグスブルク劇場の総裁などを歴任。2007年よりミュンヘン・ゲルトナー・プラッツ劇場の総裁。『イル・トロヴァトーレ』が初来日、及び新国立劇場初登場となる。



レオノーラ：タケシャ・メシェ・キザール

Leonora : Takesha Meshé Kizart

シカゴ生まれ。フィラデルフィアのアカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツで学ぶ。これまでにダラス・オペラ、フィラデルフィア・リリック・フェスティバル、フランクフルト歌劇場、イギリスのオペラ・ノース、オーストラリア・オペラなどに出演。『運命の力』レオノーラ、『仮面舞踏会』アメーリア、『マクベス』マクベス夫人、『オテロ』デズデーモナ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『メリー・ウイドウ』ハンナ・グラヴァリなどのレパートリーを持つ。2010年10月には『ラ・ボエーム』ムゼッタでメトロポリタン歌劇場デビュー。“溢れ出るリリカルな美しさと、きっぱりとした劇的な力強さ”と評される歌唱力は世界中のコンクールで多くの受賞歴を誇る。今後は、ベルリン・ドイツ・オペラ『ラ・ボエーム』、シュトゥットガルト州立歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、ケルン歌劇場『青ひげ公の城』などに出演予定。新国立劇場初登場。



マンリーコ：ヴァルテル・フラッカーロ

Manrico : Walter Fraccaro

イタリアのカステルフランコ生まれ。1994年にバルセロナのリセウ劇場の『ナブッコ』でオペラデビュー。以来、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、マドリードのレアル劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界各地の歌劇場に出演。『アイダ』ラダメス、『仮面舞踏会』リッカルド、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『オテロ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『カルメン』ドン・ホセ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなど幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場には2003年『アイダ』ラダメス、08年『トゥーランドット』カラフに続く3回目の出演。2011/2012シーズンは『オテロ』タイトルロールにも出演予定。



イル・トロヴァトーレ

Il Trovatore / Giuseppe Verdi

ルーナ伯爵：ヴィットリオ・ヴィテッリ

Il Conte di Luna : Vittorio Vitelli

イタリアのアスコリ・ピチェーノ生まれ。1996年にプラシド・ドミンゴ・オペラリア声楽コンクールにおいて優勝後、国際的なキャリアをスタート。プッチーニ、ヴェルディを主なレパートリーとしてフェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ニース歌劇場、マドリッドのレアル劇場、ワシントン・オペラ、ウィーンのクラングボーゲン音楽祭、マチェラータ音楽祭などヨーロッパを中心に活躍。主なレパートリーとして、『ラ・ボエーム』『マルチェッロ』『マノン・レスコー』『レスコー』『オテロ』『イアーゴ』『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『椿姫』ジェルモン、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロールなど幅広く、一流指揮者や演出家との共演を重ねている。最近では2009/2010シーズンに、ライブツィヒ歌劇場『マノン・レスコー』レスコー、バルセロナのリセウ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』（新制作）ルーナ伯爵、ブレゲンツ音楽祭『アイーダ』（新制作）アモナズロなどに出演。リセウ歌劇場には2010/2011シーズン『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『道化師』トニオに出演。2014年には『トスカ』（新制作）スカルピアで出演予定。新国立劇場初登場。



アズチェーナ：アンドレア・エディナ・ウルブリッヒ

Azucena : Andrea Edina Ulbrich

ブダペスト生まれ。ピアノを学んだ後、フランク・リスト音楽院で声楽を学ぶ。1996年にライオン・ドイツ・オペラと契約。これまでに、ウィーン、ベルリン、ドレスデン、パリ、アムステルダム、ブリュッセル、アントワープ、ヴェローナなどヨーロッパ各地でオペラやコンサートに出演。『皇帝ティートの慈悲』セクストゥス、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『アイーダ』アムネリス、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナ、『ナブッコ』フェネーナ、『蝶々夫人』スズキ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『エウゲニ・オネーギン』オルガなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定としては、2011年にヴァチカンで『聖エリザベートの物語』、12年にトゥールーズで『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナなどがある。新国立劇場初登場。

フェルランド：妻屋秀和

Ferrando : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライブツィヒ歌劇場、02年よりワイマルのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トウランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長にも出演予定。藤原歌劇団団員。



サロメ

2011.10/9 ~ 22

レパートリー
Repertoire

Salome

オペラパレス | 5回公演 | 全1幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初 演：1905年12月9日 ザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）

作 曲：リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss (1864–1949)

原 作：オスカー・ワイルド（戯曲『サロメ』） Oscar Wilde

ドイツ語台本：ヘドヴィッヒ・ラッハマン Hedwig Lachmann

美しく妖艶に舞ったサロメが求めたものは…陶酔と官能のオペラ。

演目選定にあたって

2010/2011 シーズン『アラベッラ』『ぼらの騎士』に続く、ドイツ後期ロマン派を代表する R.シュトラウス作品。新国立劇場オペラのレパートリーとしてしっかり定着したこのプロダクションは、バイエルン州立歌劇場（故エファード・ディング演出）の作品で、舞台中央に巨大な古井戸を据えた迫力と妖しさが漂う秀作。また、2000年の初演から今までに4人のサロメがそれぞれ歌と演技で観客を魅力していることからわかるように、同じプロダクションを違うキャストで観るオペラの楽しみ方を堪能できる重要な作品。欧米の歌劇場でサロメを演じ好評を博している新国立劇場初登場のズネガルドも観客の期待に応えることでしょう。さらに、本作品で尾高芸術監督が新国立劇場での指揮デビューを飾ります。サロメを題材とした作品は、何世紀にも亘って芸術家たちの創造力を刺激し、音楽、文学、美術、演劇でも多くの傑作が残されており、同シーズンの演劇のラインアップにもオスカー・ワイルドの『サロメ』が登場します。演劇で、オペラで愉しめる新国立劇場ならではのラインアップで、幅広い客層にアピールできればと考えています。

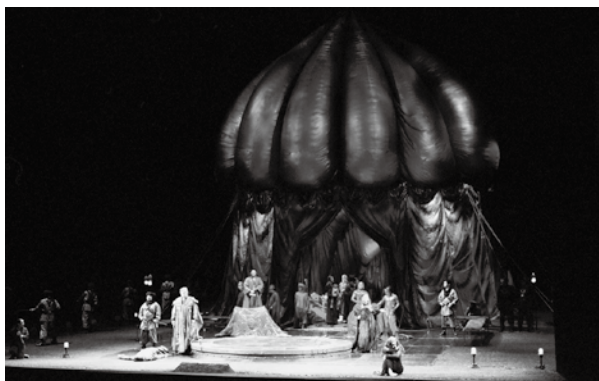
（2012年6月には新国立劇場演劇『サロメ』が予定されています。）

作品解説

作曲家、指揮者として活躍していたリヒャルト・シュトラウスの名を、一種独特な響きをもって世界中に知らしめた作品。19世紀末、ドイツで人気が高かったオスカー・ワイルドの芝居『サロメ』を観たシュトラウスはこのスキャンダラスな作品のオペラ化を思い立ち、ワイルドの官能美溢れる世界を維持するため、ドイツ語訳の戯曲をそのまま台本としました。元来、サロメは新約聖書マルコ伝に登場する女性で、聖書の中ではほんの端役にすぎませんが、1905年ザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）での初演は38回にもものぼるカーテンコールを受け一大センセーションを巻き起こしました。サロメが、踊りを踊った褒美として義父から与えられた生首にくちづけするシーンや、大胆で緊張度の高い音楽は斬新且つ官能的で、ウィーンやロンドンでは上演禁止となったほどです。2000年4月初演の新国立劇場プロダクションは、アウグスト・エファード・ディングが1980年にバイエルン州立歌劇場で行ったものに基づきます。タイトルロールのサロメは、歌唱テクニック、演技力、そして踊りを踊ることも望まれる、大変困難な役の一つ。豊麗で甘美な旋律をもつ一方で、大胆な不協和音が駆使された『サロメ』は、シュトラウスの作品中もっとも意欲的な前進を試みたオペラであり、今日も世界中で聞き手を刺激し続けています。

あらすじ

紀元30年頃のエルサレム、ヘロデ王の宮殿。宴会をぬけた王の義理の娘サロメは、庭の古井戸の中に捕らわれている預言者のヨハナーンの声に興味を持ち、上へ連れ出すよう衛兵隊長ナラポートに命ずる。サロメの色香に負けたナラポートは、禁をおかしてヨハナーンを古井戸から連れ出す。ヨハナーンをひと目見て魅了されたサロメは、彼の髪や肌に触れようとするが、ヨハナーンは全くなびかない。サロメの欲求は拒絶される毎に高まり、接吻を迫るが、ヨハナーンは全く相手にせず、サロメの母ヘロディアスの罪を告発して、再び古井戸に戻る。一方、好色なヘロデ王は、サロメに褒美をなんでもやるから踊るよう求める。苛立つ母ヘロディアスをよそに、サロメは七つのペールを身にまとい、一枚、また一枚と脱いでいく官能的な「七つのペールの踊り」を踊る。踊りを終えてサロメが要求した褒美とは、ヨハナーンの首であった。恍惚感にあふれ生首に接吻をするサロメに、怖れおののいたヘロデ王の叫び声が響く。



2002年公演より

R. シュトラウス

サロメ

Salome / Richard Strauss

全1幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………尾高忠明
Conductor Otaka Tadaaki

演出……………アウグスト・エファードィング
Production August Everding

美術・衣裳……………ヨルク・ツィンマーマン
Scenery and Costume Design Jörg Zimmermann

サロメ……………エリカ・ズンネガルド
Salome Erika Sunnegårdh

ヘロデ……………クリスティアン・フランツ
Herodes Christian Franz

ヘロディアス……………ハンナ・シュヴァルツ
Herodias Hanna Schwarz

ヨハナーン……………ジョン・ヴェーグナー
Johanaan John Wegner

ナラボート……………望月哲也
Naraboth Mochizuki Tetsuya

ヘロディアスの小姓……………山下牧子
Ein Page der Herodias Yamashita Makiko

5人のユダヤ人1……………大野光彦
5 Juden 1 Ono Mitsuhiko

2……………羽山晃生
2 Hayama Kosei

3……………加茂下 稔
3 Kamoshita Minoru

4……………高橋 淳
4 Takahashi Jun

5……………大澤 建
5 Osawa Ken

2人のナザレ人1……………大沼 徹
2 Nazarener 1 Onuma Toru

2……………秋谷直之
2 Akitani Naoyuki

2人の兵士1……………志村文彦
2 Soldaten 1 Shimura Fumihiko

2……………斉木健詞
2 Saiki Kenji

カッパドキア人……………岡 昭宏
Ein Cappadocier Oka Akihiro

奴 隸……………未定
Ein Sklave TBA

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2011年10/9（日）3：00 10/19（水）3：00
10/12（水）7：00 10/22（土）3：00
10/15（土）3：00

オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：21,000円・A：15,750円・B：10,500円・C：6,300円・D：3,150円

【前売開始】2011.6/12（日）

サロメ

Salome / Richard Strauss

指揮：尾高忠明

Conductor : Otaka Tadaaki

鎌倉生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、バーミンガム市交響楽団、バンベルク交響楽団、シドニー交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団等世界各地のオーケストラへ客演している。これまで1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号を、ウェールズ大学より名誉博士号を、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。さらに99年には英国エルガー協会より、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。現在新国立劇場オペラ芸術監督、NHK交響楽団正指揮者、札幌交響楽団音楽監督、メルボルン交響楽団首席客演指揮者、BBCウェールズ交響楽団(現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団)桂冠指揮者、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井シンフォニエッタ東京桂冠名誉指揮者を務めるほか、東京藝術大学音楽学部指揮科主任教授、相愛大学音楽学部客員教授として後進の指導に当たっている。新国立劇場に指揮者として初登場。



©Masahide Sato

演出：アウグスト・エファードイング

Production : August Everding



1928年ドイツのヴェストファーレン州ポットロップに生まれる。ボン大学およびミュンヘン大学で哲学、ドイツ文学、演劇学を修める。ミュンヘン・カンマーシュピレで演出助手として研鑽を積み、その後各地で演出家として活躍。63年に同劇場のインテンダント、73年にハンブルク州立歌劇場、77年にバイエルン州立歌劇場の総監督となり、82年にはバイエルン州の全州立劇場の総監督に就任、93年にバイエルン州テアトロアカデミー総監督兼理事長となる。99年ミュンヘンにて逝去。生前は、ドイツ劇場連盟をはじめとする芸術文化関係団体の要職を歴任するかたわら演出家としても積極的に活躍した。

サロメ：エリカ・ズンネガルド

Salome : Erika Sunnegårdh

ストックホルム生まれ。イスラエル、タングルウッド、ブリテン=ピアーズ音楽学校など各地で奨学生として声楽を学ぶ。1999年にアーロン・コーブランド音楽学校を卒業。2004年9月にスウェーデンのマルメ歌劇場で『トゥーランドット』タイトルロールでオペラデビューを飾る。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ボローニャ歌劇場、バルセロナのリセウ劇場などに出演。『トスカ』タイトルロール、『マクベス』マクベス夫人、『フィデリオ』レオノーレ、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『サロメ』タイトルロール、『ワルキューレ』ヘルムヴィーゲ／ゲルヒルデ、『エレクトラ』クリテムネストラなどをレパートリーとする。2006年6月にメトロポリタン歌劇場公演で来日している。新国立劇場初登場。



ヘロデ：クリスティアン・フランツ

Herodes : Christian Franz



ミュンヘンに生まれ、ミュンヘン音楽大学で学ぶ。1991年に弱冠23歳でドイツ国内にて、オペラデビュー作となる『魔弾の射手』マックスと『ランメルモールのルチア』エドガルドを歌う。以来、世界的ヘルデン・テノールとして各地に招かれるようになり、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、エジンバラ音楽祭などに定期的に出演している。『ニーベルングの指環』ジークフリート、ジークムント、ローゲ、『トリスタンとイゾルデ』トリスタン、『パルジファル』タイトルロール、『オテロ』タイトルロール、『道化師』カニオ、『フィデリオ』フロレスタン、『ナクソス島のアリアドネ』バッカスなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定として、ブダペストで、トリスタン、ローゲ、ジークムント、ジークフリートを歌うほか、2013年にはハンブルクで初めて『リエンツィ』を歌う。新国立劇場では03年『ジークフリート』、04年『神々の黄昏』、06年『道化師』カニオに出演。最近では10年に『ジークフリート』と『神々の黄昏』でジークフリートを歌い、大喝采を浴びた。

サロメ

Salome / Richard Strauss

ヘロディアス：ハンナ・シュヴァルツ

Herodias : Hanna Schwarz

ハンブルク生まれ。心理学を学んだ後に、ハノーファーで声楽を学ぶ。当地で『ワルキューレ』ジークルーネを歌ってオペラデビュー。その後ハンブルク州立歌劇場と契約。1975年よりバイロイト音楽祭に出演し、エルダ、フリッカ、ブランゲーネ、ヴァルトラウテを歌う。これまでにメトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。『パルジファル』クンドリ、『ルル』ゲシュヴィッツ伯爵令嬢、『サロメ』ヘロディアス、『エレクトラ』クリテムネストラ、『影のない女』乳母、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『カルメン』タイトルロールなどを歌っている。今後の予定として、セビリアで『ラインの黄金』、バーゼルで『スぺードの女王』、ザルツブルク音楽祭などがある。新国立劇場には2003年3月『ジークフリート』エルダで登場している。



ヨハナーン：ジョン・ヴェーグナー

Johanaan : John Wegner

ドイツのヘアボルン生まれ。メルボルンで学ぶ。1981年にシドニーでブリテンの『真夏の夜の夢』シーシアスでオペラデビュー。オーストラリア・オペラでバス歌手として活躍後、渡欧しヘルデン・バリトンとしてカールスルーエ、ライン・ドイツ・オペラで研鑽を積む。以来、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、プラハ国立歌劇場、ミラノ・スカラ座など各地に登場。2008年に『ローエングリン』テルラムントでウィーン国立歌劇場にデビュー。バイロイト音楽祭では1997年に『ラインの黄金』ドンナーでデビュー後、『タンホイザー』ピーテロルフ、『ローエングリン』テルラムント、『パルジファル』クリングゾール、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナールなどで度々出演している。ほかにも『ドン・ジョヴァンニ』レポレツコ、『トスカ』スカルピア、『オテロ』イアーゴ、『ニーベルングの指環』のヴォータン、さすらい人、アルベリヒ、『イーゴリ公』タイトルロールなど幅広いレパートリーを持つ。2011年には『フィデリオ』ドン・ピツァロで英国ロイヤルオペラにデビューする。新国立劇場には08年『サロメ』ヨハナーン、10年『カルメン』エスカミーリョに続いて3回目の出演。



ナラボート：望月哲也

Naraboth : Mochizuki Tetsuya

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽科修士課程オペラ科修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞を受賞。NTTドコモより奨学金を授与。文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科にて研鑽を積む。第35回日伊声楽コンクール第3位入賞。第70回日本音楽コンクール第2位入賞。『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』『愛の妙薬』『セビリアの理髪師』『ボッペアの戴冠』『ナクス島のアリアドネ』『サロメ』『エジプトのヘレナ』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』などに出演。二期会とハンブルク州立歌劇場共同制作『皇帝ティトの慈悲』で高い評価を得た。その後も東京二期会『カプリッチョ』若き音楽家フラマン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ等に出演。新国立劇場には『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童等出演が続いている。二期会会員。



2011.11/23 ~ 12/6

ルサルカ

新制作
New production

Rusalka

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕〈チェコ語上演／字幕付〉

初 演：1901年3月31日 ブラハ国民劇場

作 曲：アントニン・ドヴォルザーク Antonín Dvořák (1841–1904)

原 作：ヤロスラフ・クヴァピル Jaroslav Kvapil

ドヴォルザークの美しい旋律が奏でる、水の精ルサルカの悲恋。

演出選定にあたって

新国立劇場オペラのラインアップには、オペラの代名詞と呼ばれるようなスタンダードな人気作品とともに、日本国内での上演機会が少ない名作を取り上げることも重要と考えます。今シーズンは、東欧の作品からドヴォルザークの幻想的なメルヘン・オペラ『ルサルカ』が初登場です。スメタナ、ヤナーチェクと並びチェコの民族的オペラに貢献したドヴォルザークは、交響曲第9番『新世界より』の作曲家として有名ですが、切なくも美しいアリア〈月に寄せる歌(白銀の月)〉で知られるように、美しいメロディにあふれるオペラ作品を残しています。2008年斬新なデザインで完成した新オペラハウスとして話題となったオスロのノルウェー国立オペラ・バレエのプロダクション(2009年初演)が新国立劇場での上演に最適であると考え、この舞台装置・衣裳・小道具をレンタルし、新国立劇場初上演することとなりました。闇に輝く月、戯れる精霊、神秘のベールに包まれた森を舞台に、メルヘンチックなおとぎ話が、多感な少女の夢の中で鮮やかに甦ります。演出は、登場人物の心情を音楽とともに明確に表現したノルウェー国立オペラ・バレエ芸術監督ポール・カランによる秀作です。チェコ出身の指揮者キズリンクは新国立劇場初登場、ルサルカ役は美声と可憐な舞台姿で人気を集めるグリャコヴァです。

作品解説

アントニン・ドヴォルザークは、スメタナやヤナーチェクとともに知られるチェコの「国民楽派」を代表する作曲家で、世界的な音楽家としての知名度を得た交響曲第9番『新世界より』や『ユーモレスク』のほか、11作ものオペラを作曲しています。19世紀から20世紀にかけて、ヨーロッパ各国で言語やメロディー等に自国の民族主義を色濃く反映した音楽が数多く作曲されました。『ルサルカ』もこの流れをくむ作品で、チェコ語によるロマンティックな作品です。月に向かって王子への切ない恋心を歌う〈月に寄せる歌(白銀の月)〉や、ハーブによる水面にきらめく月の光の描写等、繊細で美しいメロディに溢れた秀作。スラヴ神話に登場する水の精霊ウンディーネを題材としたドイツ・ロマン派フーケの小説『ウンディーヌ』と、アンデルセン童話『人魚姫』が物語の基になっています。水の精と人間の男性との幻想的な恋物語は、チャイコフスキーのオペラ『ウンディーナ』、ジロドゥの戯曲『オンディーヌ』、ヘンツェ作曲のバレエ『オンディーヌ』等、多くの作品のモチーフとなっています。

あらすじ

森に棲む水の精ルサルカは、人間の王子に恋をしている。ある月の美しい夜、ルサルカは人間の姿と魂を手に入れて王子と結ばれたいとヴォドニク（水の精のおじいさん）に打ち明ける。彼は忠告とともに魔法使いイェジババに相談することを勧める。魔法使いは、ルサルカの望みをかなえるためには、引きかえに“声”を失い、もし王子の裏切りにあえば、二人とも呪いがかかり破滅すると話すが、王子を恋するあまり、ルサルカはこれを受け入れ人間の姿にしてもらふ。王子は美しいルサルカと森で出会うとたちまち恋に落ち、城に連れて帰る。城で王子とルサルカの結婚式の準備が進む。王子の愛情は、口をきかないルサルカから、祝宴のために訪れていた外国の公女に移る。嘆き悲しむルサルカの前に、水の精ヴォドニクが現れ、ルサルカを裏切った王子に呪いをかけルサルカを湖に連れ帰る。人間でも精霊でもなく永遠にさまよい続けなければならなくなったルサルカ。魔法使いが現れ、ルサルカに短剣を手渡し王子の血によって水の精に戻れると教えるが、王子への想いが断ち切れないルサルカは短剣を湖に捨てる。呪いに苦しむ王子が湖に現れ、ルサルカに許しを乞う。ルサルカは、自分の接吻は王子に死をもたらすものだと言うと、王子は自分の不実を償うためルサルカに口づけをし、安らかに息絶える。ルサルカは湖の底に沈む。

A.ドヴォルザーク

ルサルカ

Rusalka / Antonín Dvořák

全3幕〈チェコ語上演／字幕付〉

指揮…………… ヤロスラフ・キズリンク
Conductor Jaroslav Kyzlink

演出…………… ポール・カラン
Production Paul Curran

美術・衣裳…………… ケヴィン・ナイト
Scenery and Costume Design Kevin Knight

照明…………… ディヴィット・ジャック
Lighting Design David Jacques

ルサルカ…………… オルガ・グリャコヴァ
Rusalka Olga Guryakova

イェジババ(魔法使い) …… ビルギット・レンメルト
Ježibaba (a witch) Birgit Remmert

王子…………… ペーター・ベルガー
The Prince Peter Berger

ヴォドニク(水の精) …… ミッシャ・シェロミアンスキー
Vodník (Water spirit) Mischa Shelomianski

外国の公女…………… ブリギッテ・ピンター
The foreign princess Brigitte Pinter

森番…………… 井ノ上 了吏
Gamekeeper Inoue Ryoji

皿洗い(料理人の少年) …… 加納悦子
Kitchen boy Kanoh Etsuko

第一の森の精…………… 安藤赴美子
1st wood spirit Ando Fumiko

第二の森の精…………… 池田香織
2nd wood spirit Ikeda Kaori

第三の森の精…………… 清水華澄
3rd wood spirit Shimizu Kasumi

狩人の声…………… 未定
Hunter TBA

合唱…………… 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽…………… 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

※本公演は、ノルウェー国立オペラ・バレエからのプロダクション・レンタルでの上演となります。

2011年11/23(水・祝) 2:00 12/3(土) 2:00

11/26(土) 2:00 12/6(火) 2:00

11/29(火) 6:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 23,100円・A: 18,900円・B: 12,600円・C: 7,350円・D: 4,200円

【前売開始】2011.7/9(土)

ルサルカ

Rusalka / Antonín Dvořák

指揮：ヤロスラフ・キズリンク

Conductor : Jaroslav Kyzlink

チェコのブルノ生まれ。同市のヤナーチェク音楽アカデミーで合唱とオーケストラ指揮を学ぶ。1992年からブルノ国立歌劇場の指揮者。合唱指揮を皮切りに、2001年からは同歌劇場の首席指揮者、01年から03年までは音楽監督を務める。プラハ国立歌劇場、スロヴァキア国立劇場、ラトヴィア国立歌劇場、ポーランド国立歌劇場等、東欧を中心に活躍。これまでにブルノ国立歌劇場のツアーで01年と03年に来日している。09年アテネのギリシャ国立劇場での『ルサルカ』公演での大成功のほか、同郷のヤナーチェクの演奏には特に定評があり、『利口な女狐の物語』『イエヌーフ』『カーチャ・カバノヴァー』のほか、ヤナーチェクのオペラ第1作目の『シャルカ』も振っている。ドヴォルザーク、スメタナ、ヴェルディ、プッチーニ、ロッシーニ、ドニゼッティ、モーツァルト、ワーグナーなど幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。



演出：ポール・カラン

Production : Paul Curran

グラスゴー生まれ。シドニーのオーストラリア国立演劇学院およびフィンランド国立オペラで演出を学ぶ。現在、オスロのノルウェー国立歌劇場の芸術監督。これまでにミラノ・スカラ座で『タンホイザー』、サンタフェ・オペラで『ラ・ボエーム』『ペリー・バッド』『アルバート・ヘリング』『ピーター・グライムズ』、シカゴ・リリック・オペラで『影のない女』と『ルル』、フランダース・オペラで『ナクソス島のアリアドネ』、フェニーチェ歌劇場で『ナクソス島のアリアドネ』と『ダフネ』、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場および東京文化会館で『イル・トロヴァトーレ』、マリインスキー劇場でゲルギエフの指揮で『イーゴリ公』と『トスカ』を手がけるなど世界各地で活躍している。最近では、ノルウェー国立歌劇場で『ルサルカ』『トスカ』『子供と呪文』『エディプス王』を手がける。2011年にはデンマーク王立歌劇場で『道化師』、英国ロイヤルオペラで『皇帝の花嫁』を演出する予定。新国立劇場初登場。



ルサルカ：オルガ・グリャコヴァ

Rusalka : Olga Guryakova

ロシア中部のノヴォズネツク生まれ。モスクワ音楽院で学ぶ。1994年にモスクワのスタニスラフスキー・ネミローヴィチ・ダンチェンコ劇場に所属。これまでにメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、マリインスキー劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナ、『スペードの女王』リーザ、『ラ・ボエーム』ミミ、『蝶々夫人』タイトルロール、『オテロ』デズデーモナ、『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、『エルナーニ』ドンナ・エルヴィーラ、『カルメン』ミカエラ、『マノン・レスコー』タイトルロールなどを歌っている。日本では2007年8月にサイトウ・キネン・フェスティバルで『スペードの女王』に出演した。今後の予定としては、ウィーン国立歌劇場で『蝶々夫人』、パリ・オペラ座で『スペードの女王』などがある。新国立劇場には11年6月『蝶々夫人』タイトルロールで初登場予定。



イェジババ(魔法使い)：ビルギット・レンメルト

Ježibaba (a witch) : Birgit Remmert

ドイツのブラウンシュヴァイク生まれ。同市、およびデトモルトで声楽を学ぶ。チューリッヒ歌劇場との契約でキャリアをスタート。そのほかにもベルリン、ドレスデン、アムステルダム、マドリッド、ザルツブルク音楽祭、バイロイト音楽祭など各地に出演。『蝶々夫人』スズキ、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『仮面舞踏会』ウルリカ、『ジャンニ・スキッキ』ツィータ、『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、『ローエングリン』オルトルート、『ルサルカ』魔法使い、『サムソンとデリラ』デリラ、『影のない女』乳母などのレパートリーを持つ。2010年9月はアン・デア・ウィーン劇場の『セメレ』(新制作) ジュノに出演。今後は『影のない女』乳母でウィーン国立歌劇場とチューリッヒ歌劇場に、『ルサルカ』魔法使いで新国立劇場のほかジュネーヴ歌劇場に出演予定。新国立劇場には01年『ラインの黄金』エルダに続く2度目の登場。



ルサルカ

Rusalka / Antonín Dvořák

王子：ペーター・ベルガー

The Prince : Peter Berger

スロヴァキアのコシツェの音楽院で声楽を学ぶ。スロヴァキア国内のブルノ国立歌劇場やコンサートに出演を重ねた後、2007/2008シーズンに、『蝶々夫人』のピンカートンでブラチスラヴァ国立歌劇場にデビュー。2008/2009シーズンよりソリスト。2009年からはブラハ国立歌劇場に出演。『愛の妙薬』ネモリーノ、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『ファウスト』タイトルロール、『ルサルカ』王子、『売られた花嫁』イエーニク、『リゴレット』マントヴァ公爵、『ナブッコ』イズマエーレ、『蝶々夫人』ピンカートン、『エウゲニ・オネーギン』レンスキーなどをレパートリーとする。日本には、東京でオペラのガラコンサートに出演。08年には第5回静岡国際オペラコンクールに出場。新国立劇場初登場。



ヴォドニク(水の精)：ミッシェ・シェロミアンスキー

Vodník (Water spirit) : Mischa Shelomianski

モスクワ出身。モスクワで声楽と合唱指導を学んだ後、フランクフルト音楽大学で学ぶ。2008年グラインドボーン音楽祭に『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵でデビューを飾り、翌年も『ルサルカ』水の精で好評を博す。これまでにバリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ジュネーヴ大劇場、リヨン歌劇場、ヘンデル音楽祭などに出演。『リゴレット』スバラフチーレ、『マクベス』バンクォー、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロ、『魔笛』ザラストロ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ボーグナー、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、『魔弾の射手』隠者、『ルサルカ』水の精など幅広いレパートリーを誇る。新国立劇場初登場。

外国の公女：ブリギッテ・ピンター

The foreign princess : Brigitte Pinter

オーストリア出身。クラウディオ・アバドに才能を見出され、同氏の推薦でニューヨークのジュリアード音楽院で学ぶ。2006年にはリッカルド・ムーティの招きでミラノ・スカラ座に初登場、『聖女スザンナ』タイトルロールを演じる。これまでにウィーン国立歌劇場、バリ・オペラ座、チューリッヒ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ローマ歌劇場などに出演。『フィデリオ』レオノーレ、『トゥーランドット』タイトルロール、『ニーベルングの指環』ブリュンヒルデとジークリンデ、『バルジファル』クンドリ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『ローエングリン』オルトルート、『タンホイザー』ヴェーヌス、『エレクトラ』『サロメ』タイトルロール、『影のない女』バラクの妻、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ルサルカ』タイトルロール、『ヴォツェック』マリーなど幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。



こうもり

2011.12/1 ~ 11

レパートリー
Repertoire

Die Fledermaus

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初 演：1874年4月5日 アン・デア・ウィーン劇場

作 曲：ヨハン・シュトラウスⅡ世 Johann Strauss II (1825-1899)

台 本：カール・ハフナー 及びリヒャルト・ジェネー Carl Haffner / Richard Genée

夜会で口説いた仮面の美女は妻だった！ オペレッタ最高傑作！

演目選定にあたって

オペラのシーズンラインアップの幅を広げ、奥行きのある内容で多くの観客にお楽しみいただけるよう、優れたオペレッタ作品も上演演目に入れることを尾高芸術監督は就任当初より計画。数ある名作の中から、世界各地でワルツ王の名を轟かせたシュトラウスⅡ世が手がけたオペレッタの最高傑作『こうもり』を選びました。シュトラウスの街ウィーンでは、世界的な注目を浴びるニューイヤーコンサートと並び、年末年始の風物詩として大晦日の晩に『こうもり』が上演されます。2006年初演の新国立劇場プロダクションは、ウィーン宮廷歌手の称号を持つツェドニクのオペラ演出デビュー作品です。『こうもり』の4役をレパートリーとするほど作品を知り尽くした演出家による、ウィーンの香り漂う小粋でエレガントなプロダクションとなりました。エンターテインメント性の高い作品ですが、歌唱力ばかりでなく演技・表現力をも要求される作品のため、指揮にエッティンガー、歌手陣には、現代最高のメゾ・ソプラノ、バルツァをはじめ、ウィーン国立歌劇場を中心に活躍するウィーン生まれのエリートなど、最高の布陣で臨みます。2011年の師走は新国立劇場オペラパレスで、喜歌劇“こうもりの復讐”をお楽しみください。

(2012年2月には新国立劇場バレエ『こうもり』が予定されています。)

作品解説

ワルツ王 ヨハン・シュトラウスⅡ世は、16にも及ぶオペレッタ作品を残していますが、その3作目としてウィーン郊外で書き上げた『こうもり』は、オペレッタの中でも最高傑作と言われ、通常はオペレッタを上演しないウィーン国立歌劇場でも『こうもり』だけは別格扱いしてきたほどの名作です。1874年4月5日、モーツァルト『魔笛』の初演劇場としても有名なウィーンのアン・デア・ウィーン劇場にて、作曲者本人の指揮で初演され大成功を収めました。美しいワルツやポルカ、小粋で品格のある風刺やしゃれが随所に散りばめられ、華やかな舞踏会シーン、シャンパンの泡が弾けるような明るい音楽等、世界中の人々の心を捉え続ける音楽劇です。巧みなセリフで軽快に進み、最後は嫉妬も怒りも“シャンパンの泡のいたずら”のせいにして、ハッピーエンド。歌舞伎でいうと“世話物”の作品です。演劇の持つインパクトに音楽と踊りがスムーズに組み合わさった躍動感溢れる大人のオペレッタです。

あらすじ

大晦日、ウィーン郊外の湯治場として有名なバーデンを舞台に繰り広げられる物語。

裕福な資産家アイゼンシュタインは、年末年始を妻のロザリンデと過ごすためバーデンの別荘に滞在している。大晦日の昼下がり、彼は、顧問弁護士のプリント博士の不手際で、8日間の禁固刑を受けて大憤慨。そこへ、友人のファルケから、刑務所に行く前にオルロフスキー公爵邸で開かれる舞踏会に、ロザリンデには内緒で行こうと誘われて有頂天。ファルケはロザリンデにもこの舞踏会の招待状を渡す。実は、ファルケは“こうもり博士”と渾名をつけられた仕返しに、愉快的復讐劇を仕組んでいたのだ。夫を送り出したロザリンデの前にかつての恋人でオペラ歌手のアルフレードが現われ、愛をささやいている間に、アイゼンシュタイン当人と間違われて連行されてしまう。艶やかな舞踏会会場。ファルケの指示通り別人に成りすましたアイゼンシュタインは、仮面の美女を妻と気づかず「鈴の音時計」を使って口説こうとする。歌・踊り・シャンパンに溢れた舞踏会は最高潮に達し、新年を迎える。

翌朝、刑務所に出頭するアイゼンシュタイン。しかし、自分の名で投獄されているアルフレードと、駆けつけてきたロザリンデの関係を疑い、妻の浮気を責め立てるが、ロザリンデは昨晚、証拠物件としてアイゼンシュタインから奪った「鈴の音時計」を取り出し、逆にやり込めてしまう。そこへ、この茶番劇の仕掛人ファルケとオルロフスキーが現われ、「全ては、シャンパンのいたずら！」と大団円を迎える。



2006年公演より



2009年公演より

J. シュトラウスⅡ世

こうもり

Die Fledermaus / Johann Strauss II

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………	ダン・エッティンガー
Conductor	Dan Ettinger
演出……………	ハインツ・ツェドニク
Production	Heinz Zednik
美術・衣裳……………	オラフ・ゾンベック
Scenery and Costume Design	Olaf Zombeck
振付……………	マリア・ルーズ・ヤスカ
Choreographer	Maria Luise Jaska
照明……………	立田雄士
Lighting Design	Tatsuta Yuji
ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン ……	アドリアン・エレート
Gabriel von Eisenstein	Adrian Eröd
ロザリンデ ……	アンナ・ガブラー
Rosalinde	Anna Gabler
フランク ……	ギュンター・ミッセンハルト
Frank	Günter Missenhardt
オルロフスキー公爵 ……	アグネス・バルツァ
Prinz Orlofsky	Agnes Baltza
アルフレード ……	大槻孝志
Alfred	Otsuki Takashi
ファルケ博士 ……	ペーター・エーデルマン
Dr. Falke	Peter Edelmann
アデーレ ……	橋本明希
Adele	Hashimoto Aki
ブリント博士 ……	太久保光哉
Dr. Blind	Okubo Mitsuya
フロッシュ ……	フランツ・スラーダ
Frosch	Franz Suhrada
イーダ ……	平井香織
Ida	Hirai Kaori
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
バレエ……………	東京シティ・バレエ団
Ballet	Tokyo City Ballet
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2011年12/1（木）6：30 12/9（金）2：00

12/4（日）2：00 12/11（日）2：00

12/7（水）6：30

オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：23,100円・A：18,900円・B：12,600円・C：7,350円・D：4,200円

【前売開始】2011.8/7（日）

こうもり

Die Fledermaus / Johann Strauss II

指揮：ダン・エッティンガー

Conductor : Dan Ettinger

ニュー・イスラエル・オペラ常任指揮者を務めた後、2003/2004シーズンからベルリン州立歌劇場首席指揮者兼音楽監督助手に就任。(同劇場の音楽監督は、ダニエル・バレンボイムである。) 2009/2010シーズンよりマンハイム州立歌劇場の音楽監督(GMD)に、10年には東京フィルハーモニー交響楽団第8代常任指揮者に就任。これまでに、劇場主席指揮者としての活動により多くのオペラをレパートリーとしている。特に近年は、ワーグナー作品、ヴェルディ作品の活躍が目覚ましい。次世代を担うオペラ指揮者として、世界中が注目している。日本においては、初来日の04年『ファルスタッフ』で新国立劇場にデビュー。新国立劇場には04年、07年『ファルスタッフ』、05年『コジ・ファン・トゥッテ』、06年『イドメネオ』、08年『魔弾の射手』、09年『ラインの黄金』『ワルキューレ』、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』に続いての登場となる。



演出：ハインツ・ツェドニク

Production : Heinz Zednik



ウィーン生まれ。1964年グラーツ歌劇場と契約を結び、翌年、ウィーン国立歌劇場に移る。80年には宮廷歌手の称号を授与される。94年ウィーン国立歌劇場の名誉会員となり、97年にはフィデリオ・メダルを授与されている。これまでにバイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場等、世界の主要な歌劇場に出演。オペラとオペレッタのレパートリーは100役を超える。特に『こうもり』に関しては4役をレパートリーにしており、この演目に関してのエキスパートとして知られている。新国立劇場には、2004年『スペインの時』トルケマダ、『サロメ』ヘロデ、『ファルスタッフ』医師カイウスに出演。06年『こうもり』で演出家として世界デビューを果たし、08年にはウィーン・フォルクス・オーパー『こうもり』公演で演出家兼フロッシュ役で来日している。

ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン：アドリアン・エレート

Gabriel von Eisenstein : Adrian Eröd

ウィーン生まれ。ウィーン音楽大学で学ぶ。1996年ノイエ・オーパー・ウィーンでの『ビリー・バッド』を皮切りに、リンツ州立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーで出演を重ねる。2003/2004シーズンよりウィーン国立歌劇場の専属歌手として活躍、ハンブルク州立歌劇場、リンツ州立歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などにも登場。09年に『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』バックメッサーでバイロイト音楽祭に初登場。『フィガロの結婚』タイトルロールと伯爵、『魔笛』パパゲーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『チェネレントラ』ダンディーニ、『マノン・レスコー』レスコー、『ラインの黄金』ローゲなどをレパートリーとする。今後の予定としては、パリとドレスデンで『カプリッチョ』、アムステルダムで『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』、パリ・オペラ座、ドレスデンでの『カプリッチョ』などがある。新国立劇場には11年『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモで初登場。



ロザリンデ：アンナ・ガブラー

Rosalinde : Anna Gabler

ミュンヘン生まれ。ミュンヘン音楽大学在学中にバイエルン州立歌劇場のヤング・アーティスト・プログラムのメンバーとなる。2001/2002シーズンから3年間ライン・ドイツ・オペラ、2005/2006シーズンから3年間ニュルンベルク歌劇場の専属として研鑽を積む一方で、バイエルン州立歌劇場『ヘンゼルとグレーテル』(F.ルイーダ指揮)グレーテル、『魔笛』(I.ボルトン指揮)第一の侍女などに出演。06年にはドレスデン州立歌劇場にカタリーナ・タールバッハ演出の新制作『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル役でデビュー、08年『魔弾の射手』アガーテ、09年のヒンデミット『カルディヤック』(新制作)にも出演する。バイロイト音楽祭には07年以降『ワルキューレ』ホルンリンド役で定期的に出演、09年にはバイロイト音楽祭の新企画であることも向け作品『さまよえるオランダ人』でゼンタを演じた。パリ・シャトレ座『声によこそ』ノルマの亡霊、モネ劇場『エレクトラ』第五の侍女など、ヨーロッパを中心に活躍。今年のグライントーン音楽祭には『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』にエーファで出演する。今後はハンブルク州立歌劇場『神々の黄昏』ゲートルネ(12年2月)、フランクフルト・オペラ『恋愛禁制』マリアンナなどに出演予定。新国立劇場初登場。

こうもり

Die Fledermaus / Johann Strauss II

フランク: ギュンター・ミッセンハルト

Frank : Günter Missenhardt

ドイツのアウグスブルク生まれ。ミュンヘンで声楽を学ぶ。1965年にバイエルン州立歌劇場でオペラデビュー。その後、フランクフルト歌劇場とベルン市立劇場のアンサンブルメンバー。これまでにウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに出演。最も得意とするレパートリーは、ウィーン訛りの効いた『ばらの騎士』オックスと、『後宮からの誘拐』オスミンで、いずれも数百回歌った実績を持ち、確かな歌唱力と演技力で定評がある。新国立劇場初登場。



オルロフスキー公爵: アグネス・バルツァ

Prinz Orlofsky: Agnes Baltza



ギリシャのレフカス島生まれ。アテネの音楽アカデミーで学ぶ。1968年フランクフルト州立歌劇場『フィガロの結婚』ケルビーノでオペラデビュー。その後、ベルリン、ウィーン、ミラノ、ロンドン、ミュンヘン、チューリッヒ、ニューヨーク、シカゴなど世界各地の主要歌劇場およびザルツブルク音楽祭に出演。『皇帝ティートの慈悲』セクストゥス、『イドメネオ』イダマンテ、『オルフェオ』タイトルロール、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『チェネレントラ』アンジェリーナ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『カルメン』タイトルロール、『パルジファル』クンドリ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『エレクトラ』クリテムネストラなど幅広いレパートリーを持つ。日本にもコンサートやオペラでたびたび登場している。80年にオーストリア宮廷歌手の称号を授与される。また、88年よりウィーン国立歌劇場の名誉会員。待望の新国立劇場初登場。

アルフレード: 大槻孝志

Alfred : Otsuki Takashi

東京藝術大学卒業。同大学院ソロ科修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞ならびに奨励賞を受賞。2005年国際セルバンテス音楽祭(メキシコ)に『夕鶴』与ひょう役に参加。07年サイトウ・キネン・フェスティバルに『スベードの女王』チャブリツキーで出演。また08年コンヴィチューニー演出東京二期会公演『エウゲニ・オネーギン』レンスキーでは恵まれた美声と堅実な役作りと歌唱は次世代を担う歌手として期待されている。新国立劇場には、09年『こうもり』アルフレード、『西部の娘』郵便配達夫、『ファルスタッフ』バルドルフォや、07年小劇場オペラ『フラ・ディアヴォロ』ロレンツォ、09年高校生のための鑑賞教室『椿姫』ガストン子爵にも出演している。二期会会員。



ファルケ博士: ペーター・エーデルマン

Dr. Falke : Peter Edelman



オーストリア出身。ウィーン音楽大学で、バス歌手の父、オットー・エーデルマンに師事。1989年にハンブルク州立歌劇場でオペラデビュー。90年にベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となる。これまでにザクセン州立歌劇場(ドレスデン・ゼンパー・オペラ)、ウィーン国立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、チューリッヒ歌劇場、スウェーデン王立歌劇場、モネ劇場、フェニーチェ歌劇場などに出演。『魔笛』パパゲーノ、『フィガロの結婚』フィガロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『タンホイザー』ヴォルフラム、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『エレクトラ』オレスト、『ばらの騎士』ファンニナル、『こうもり』アイゼンシュタイン、『メリー・ウィドウ』ダニロなどを歌っている。日本では、2010年ウィーン・シェーンブルン宮殿劇場『こうもり』公演で来日。新国立劇場には、11年『ばらの騎士』ファンニナル役で初登場となる。

こうもり

Die Fledermaus / Johann Strauss II

アデーレ：橋本明希

Adele : Hashimoto Aki

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修士課程修了。2001年日生劇場オペラ教室『夕鶴』つう役を務める。第21回飯塚新人音楽コンクール第1位、第11回日本モーツァルト音楽コンクール第1位受賞後ザルツブルク・モーツァルテウム大学に留学し、06年ザルツブルク音楽祭にて、モーツァルト『アポロとヒアチントゥス』メリア、『第一戒律の責務』世俗の霊のカヴァーを務める。2007/2008シーズンからドイツのダルムシュタット州立劇場にて専属ソリストとして契約。2009/2010シーズンにはオルフのオペラ『犠牲』世界初演に日本人としてただ一人出演し、その模様がNHKにて放送される。また『ばらの騎士』ゾフィーのプレミエが、ドイツ・ヘッセン州のラジオ局で生中継され、素晴らしい讃辞を得る。2010/2011シーズンは『フィガロの結婚』スザンナ、『カルメン』フラスキータ、『ラインの黄金』ヴォークリンデの各役で出演予定。二期会会員。新国立劇場初登場。



ラ・ボエーム

2012.1/19 ~ 29

レパートリー
Repertoire

La Bohème

オペラパレス | 5回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1896年2月1日 トリノ王立歌劇場

作 曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台 本：ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイーダ・イッリカ Giuseppe Giacosa / Luigi Illica

パリの屋根裏部屋に灯った恋。プッチーニの青春賛歌。

演出選定にあたって

オペラハウスになくてはならないスタンダードな名作として、プッチーニによる甘く切ない永遠の青春オペラ『ラ・ボエーム』を再演します。詩人ロドルフォとお針子ミミとの純愛物語に加え、画家マルチェッロとその恋人ムゼッタとを対照的に描きながら、当時のパリの若者たちの生活ぶりを全4幕、起承転結の流れでまとめ上げた世界的人気作品。どの人物も写実的な手法で生き生きと描かれ、『トスカ』や『蝶々夫人』と並びプッチーニの三大名作オペラともいわれています。2003年の新国立劇場初演では、演出の栗國淳がパリの街を俯瞰するように紗幕や舞台装置を効果的に使用し、薄幸のヒロイン、ミミの涙を誘う最期のシーン等の演出が高く評価されました。上演を重ねる度に話題の指揮者や歌手が登場し、“レパートリー作品のオペラ観劇”の楽しみ方も浸透してきています。

作品解説

『マノン・レスコー』（1893年初演）の成功で一躍一流オペラ作曲家の仲間入りを果たしたプッチーニが、その後数々の傑作を生み出した台本作家イッリカと詩人ジャコーザの名コンビとともに描きあげた、愛と友情の青春オペラです。原作となっているのは、19世紀半ばにフランスで活躍したアンリ・ミュルジェの小説『ボヘミアンたちの生活風景』。原作小説の複雑さゆえに、このオペラの台本化は困難を極めました。骨格として、詩人ロドルフォとお針子ミミとの純愛物語に加え、画家マルチェッロとその恋人ムゼッタとを対照的に描きながら、当時のパリの若者たちの生活ぶりを全4幕起承転結の流れでまとめ上げました。初演は1896年トリノ王立劇場で、当時28歳のトスカニーニの指揮によるものでした。感動的な物語の効果ばかりではなく、和音の響きや、モチーフの重なりなど新しい試みも随所に見られることから、この作品の水準の高さはすぐに認められ、短期間のうちに世界中で愛される作品となりました。

あらすじ

1830年頃、パリのラテン区。クリスマス・イブ、画家マルチェッロと詩人ロドルフォは屋根裏部屋に集まり、そこに哲学者コッリーネが加わる。音楽家ショナールも食料を持ってやってくる。友人たちが出かける中、ロドルフォはひとり仕事のために残ると、そこにろうそくに火を求めるため現れたミミと出会う。二人はたちまち恋に落ちる。仲間がカフェ「モミュス」に集まる中、ミミがロドルフォから贈られた帽子をかぶったいでたちで現れ、仲間に紹介される。そこにムゼッタが初老のパトロン、アルチンドロと現れるが、昔の恋人であるマルチェッロを見ると、彼とのよりを戻して去る。何週間か後、ロドルフォといさかいをしたミミはマルチェッロに助言を求めるが、ロドルフォがもう彼女とは一緒に生きていけないと語るのを聞く。ロドルフォもまた彼女が肺病であることを知り、死を予感していた。2人は春になったら別れることで同意。季節が変わりロドルフォとマルチェッロは屋根裏部屋に戻って、自分たちが捨てた女性を思う。コッリーネとショナールが入ってくるとそこにムゼッタがやってきて、ミミがパトロンを失い重体だと告げる。ミミは自分の残された時間をロドルフォと過ごしたいと願っていた。瀕死のミミが連れてこられロドルフォと抱き合うが、すぐに息絶える。彼女の亡骸に取りすがるロドルフォが残される。



2003年公演より

G. プッチーニ

ラ・ボエーム

La Bohème / Giacomo Puccini

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	コンスタンティン・トリックス
Conductor	Constantin Trinks
演出……………	栗國 淳
Production	Aguni Jun
美術……………	バスクアーレ・グロッシ
Scenery Design	Pasquale Grossi
衣裳……………	アレックスandro・チャンマルーギ
Costume Design	Alessandro Ciammarughi
照明……………	笠原俊幸
Lighting Design	Kasahara Toshiyuki
ミミ……………	ヴェロニカ・カンジェミ
Mimi	Veronica Cangemi
ロドルフォ……………	パク・ジミン
Rodolfo	Ji-Min Park
マルチェッロ……………	アリス・アルギリス
Marcello	Aris Argiris
ムゼッタ……………	アレクサンドラ・ルブチャンスキー
Musetta	Alexandra Lubchansky
ショナール……………	甲斐栄次郎
Schaunard	Kai Eijiro
コッリーネ……………	妻屋秀和
Colline	Tsumaya Hidekazu
ベノア……………	鹿野由之
Benoit	Shikano Yoshiyuki
アルチンドロ……………	晴 雅彦
Alcindoro	Hare Masahiko
パルピニョール……………	糸賀修平
Parpignol	Itoga Shuhei
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2012年1/19 (木) 6:30 1/27 (金) 6:30
 1/22 (日) 3:00 1/29 (日) 3:00
 1/24 (火) 3:00
 オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 21,000円・A : 15,750円・B : 10,500円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2011.9/10 (土)

ラ・ボエーム

La Bohème / Giacomo Puccini

指揮：コンスタンティン・トリンクス

Conductor : Constantin Trinks

1975年カールスルーエ生まれ。同市の音楽大学で指揮とピアノを学ぶ。またシュトゥットガルト室内合唱団ではテノール歌手。複数の歌劇場や音楽祭でヴォーカル・トレーナーや指揮者を務めながら幅広いレパートリーを身につける。バーデン州立歌劇場では大野和士のアシスタントを務める。2006年よりザールラント州立劇場の首席指揮者。2009 / 2010シーズンよりダルムシュタット州立劇場の首席指揮者。ほかにもベルリン・コーミッシェ・オーバー、クラーゲンフルト市立劇場、パリ・オペラ座（10年12月）などに客演しているほか、コンサート指揮者としても様々なオーケストラを指揮している。また、東京フィルハーモニー交響楽団と東京都交響楽団への客演も予定されている。モーツァルト、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、ヴェルディ、ワーグナー、シュトラウス、バーンスタインなどのオペラレパートリーのほか、幅広いシンフォニーレパートリーを持つ。新国立劇場では08年『ドン・ジョヴァンニ』を指揮。



演出：栗國 淳

Production : Aguni Jun

1967年東京生まれ。70年に父・栗國安彦のオペラ研鑽に同行しローマに渡り、サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を修める。94年ローマ歌劇場公演日本側スタッフとして参加、この業績によるローマ歌劇場演出部などイタリア各地でキャリアを開始。P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの演出家の片腕として経験を積み、活躍の場を欧米に広げる。97年文化庁青少年芸術劇場公演・藤原歌劇団『愛の妙薬』で演出家デビュー。以後、新国立劇場、財団法人愛知県文化振興事業団、東京二期会、関西二期会、びわ湖ホール、神奈川県民ホールなど国内主要ホール・団体のオペラを演出。最近では2010年あいちトリエンナーレ2010『ホフマン物語』で動きのある幻想的な演出が高く評価された。新国立劇場では1998年新国立劇場開場記念公演『アイダ』でF.ゼッフィレッリのアシスタントとして絶大な信頼と実績を積み一方で、2000年小劇場オペラ『幸せな間違い』、02年には『セビリアの理髪師』、05年創作委嘱作品『おさん』世界初演の演出を手がけている。



ミミ：ヴェロニカ・カンジェミ

Mimi : Veronica Cangemi

アルゼンチンのメンドーザ生まれ。当初はメンドーザ交響楽団のチェリスト。その後声楽に転向し、数々のコンクールで優勝。1991年にブエノスアイレスのコロン劇場『魔笛』バミーナでオペラデビュー。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場、リヨン歌劇場、マドリッドのリアル劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『フィガロの結婚』スザンナと伯爵夫人、『フィデリオ』マルツェリーネ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『リゴレット』ジルダ、『愛の妙薬』アディーナ、『ポッペアの戴冠』ポッペア、『リナルド』アルミーダ、『アリオダンテ』ジネヴラとダリндаなど幅広いレパートリーを持つ。最近では2010年11月ウィーン国立歌劇場『アルチーナ』モルガーナを好演。日本では、09年3月にコンサート形式で『カルメン』ミカエラを歌っている。今後の予定として、アムステルダム歌劇場、バーデン・バーデン音楽祭などがある。新国立劇場初登場。



ロドルフォ：パク・ジミン

Rodolfo : Ji-Min Park

韓国生まれ。ソウル大学ならびにウィーン・コンセルヴァトリウムに学ぶ。07年英国ロイヤルオペラの「ジェット・パーカー・ヤング・アーティスト・プログラム」（若手歌手の育成コース）に所属し、『パルジファル』第三の従者で英国ロイヤルオペラデビュー後も『椿姫』ガストン子爵、『ホフマン物語』ナタナエル、『トウランドット』バン、『アイダ』伝令ほか多くの役柄で出演し研鑽を積み。レパートリーには『カルメン』ドン・ホセ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『リゴレット』マントヴァ公爵、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどがある。英国ロイヤルオペラをはじめ、フランスのボジェ、ソウルで活躍。最近では2010/2012シーズンは『ラ・ボエーム』ロドルフォでトゥールーズ歌劇場にデビュー、同役でオーストラリア・オペラのシーズンオープニングを飾る。6月には『椿姫』アルフレードでニュー・イスラエル・オペラにデビュー。2011/2012シーズンには英国ロイヤルオペラの『トロイ人』イオパス、『ランスへの旅』リーベンスコフ伯爵などが予定されている。日本には、10年英国ロイヤルオペラ日本公演『椿姫』ガストン子爵に出演した。新国立劇場初登場。



ラ・ボエーム

La Bohème / Giacomo Puccini

マルチェッロ: アリス・アルギリス

Marcello : Aris Argiris

1974年アテネ生まれ。アテネ音楽院でサクソフォン、対位法および和声学を学ぶ。93年より声楽を学び始め、ミュンヘン音楽大学でも研鑽を積む。99年よりアテネ国立歌劇場などギリシャ国内の歌劇場に出演。2010年に英国ロイヤルオペラにデビュー。ほかにもベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、モネ劇場、アントワープのヴラームゼ・オペラなどに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『チェネレントラ』ダンディーニ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『蝶々夫人』シャープレス、『ラ・ボエーム』マルチェッロとショナール、『椿姫』ジェルモン、『オテロ』イアーゴ、『仮面舞踏会』レナート、『カルメン』エスカミリーヨ、『ラインの黄金』ドンナー、『ホフマン物語』バリトン4役など幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。



ムゼッタ: アレクサンドラ・ルブチャンスキー

Musetta : Alexandra Lubchansky

サント・ペテルブルク生まれ。同市でピアノと作曲を学ぶ。その後イスラエルとドイツでもピアノを学び、ピアニストとして活躍。パリのルービンシュタイン・コンクールで1位。2000年からカールスルーエで声楽を学び始める。ヒルデスハイム市立劇場との専属契約を経て、05年よりフリー。これまでにバイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）、ベルリン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、マリンスキー劇場、モネ劇場など各地に出演。『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『魔笛』夜の女王、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『仮面舞踏会』オスカル、『椿姫』ヴィオレッタ、『チェネレントラ』タイトルロール、『ルチア』タイトルロール、『ホフマン物語』オランピア、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタのほか、ヘンツェやリームなどの現代作品もレパートリーとする。新国立劇場初登場。



ショナール: 甲斐栄次郎

Schaunard : Kai Eijiro

東京藝術大学卒業、同大学院修了。イタリアにおいてザンドナイ・コンクール3位、ティト・スキーパー・コンクール1位入賞。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークへ、五島記念文化財団の助成によりボローニャへ留学。二期会『フィガロの結婚』タイトルロール、小澤征爾音楽塾特別演奏会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、小澤征爾オペラプロジェクト『ジャンニ・スキッキ』にベット役で出演。NHKニューイヤーオペラコンサート、N響『第九』に出演。2003年ウィーン国立歌劇場にデビュー。マルチェッロ、レスコー、シャープレス、ベルコーレ、エンリーコ、アルフォンソ11世をはじめとする36役で280回以上の舞台に出演中。新国立劇場には04年『鳴神』鳴神上人役で新国立劇場デビュー、11年6月には『蝶々夫人』シャープレスで出演予定。二期会会員、ウィーン国立歌劇場専属ソリスト。



コッリーネ: 妻屋秀和

Colline : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライブツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エフゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長にも出演予定。藤原歌劇団団員。



沈黙

2012.2/15 ~ 19

新制作
New production

SILENCE

中劇場 | 5回公演 | 全2幕〈日本語上演／字幕付〉

初 演：1993年11月4日 日生劇場

台本／作曲：松村禎三 Matsumura Teizo (1929 - 2007)

原 作：遠藤周作 Endo Shusaku

神の存在とは。信仰の根源を衝いた遠藤周作の原作による名作オペラ。

演目選定にあたって

神の存在を問う、遠藤周作の不朽の名作『沈黙』をもとに、台本・作曲の松村禎三が13年という歳月をかけて完成させた珠玉のオペラ作品。日本のオペラハウスにとって、日本人作曲家によるオペラ上演は不可欠です。尾高芸術監督就任1年目の邦人作品は、国内外で700回を超える上演回数を誇り、日本を代表するオペラ作品『夕鶴』。2年目には、尾高芸術監督が以前より興味を持ち、新しいプロダクション制作への可能性と意欲をかき立てる魅力を秘めた『沈黙』を選びました。2000年新国立劇場初演のプロダクションに続く、今回の新制作は、宮田慶子演劇芸術監督の演出となります。「人間の心の業や、神との対峙・葛藤を扱った原作を個人的に愛読していたほど思い入れのある作品。台本を読むように、音を読んでいきたい」と意欲的に話す宮田演劇芸術監督のオペラ初演出にご期待ください。作曲家の言葉を伝える指揮者として、高く評価されている下野竜也も新国立劇場初登場です。

作品解説

遠藤周作原作の映画『深い川』や、ストレートプレイ、ミュージカル等の音楽も手がけた作曲家、松村禎三が、台本も担当し13年という歳月をかけてオペラ化に挑んだ珠玉のオペラ作品です。遠藤周作本人を始め、周囲の人々の意見を取り入れ、何度も台本の改訂を重ねた力作であり、自らドラマの舞台である長崎を始め、ノートル・ダム、ミラノ、フィレンツェ等を訪れ、ひたすら神と向き合いつつ独自のオペラ『沈黙』に仕立て上げました。「ドラマと音楽が掛け算となった時に大きな力が生まれます。これがオペラの中で生まれた時には、計り知れない素晴らしいものになるはずだと思った」と語る作曲者は、精神的なものが空洞化している今の世の中で、神に対する“愛”を私達に語りかけているのです。また、日本語を自然に美しく歌えることに心を配り、言葉は標準語の日本語のほか、その風土の中に生きる人たちのリアリティを強調するため、長崎の方言を用いています。新国立劇場では、2000年の新制作上演、2005年にはザ・カレッジ・オペラハウスが2003年関西初演となった独自のプロダクションを平成17年度地域招聘公演として、新国立劇場で上演しました。原作は自らもクリスチャンである作家遠藤周作の小説『沈黙』。遠藤作品の中でも最も多く海外で翻訳されている名作で、小説自体にドラマチックな緊迫感と力感が溢れています。原作の舞台は、キリシタン禁制の鎖国日本、長崎。棄教を迫られ、過酷な拷問や踏み絵の苦しみを受ける信者、それを目の当たりにするポルトガルから密入国した司祭が、必死に神の救いを求め、神の証を問う。神の“沈黙”に対する主人公の苦悩は、普遍性を持って広く私達の心をとらえています。

あらすじ

ポルトガルの若い宣教師ロドリゴは、周囲の反対を説き伏せてキリシタン禁制の鎖国日本へ、水先案内人のキチジローという日本人と共に潜入する。ロドリゴは長崎近郊のトモギ村で村外れの納屋に潜みながら隠れキリシタン達に布教を始める。しかし間もなく役人が村に踏み込んでくる。ロドリゴは駆けつけた知らせにその場を逃れるが、捕らえられた村人3人とキチジローは踏み絵を迫られ、かつての転び者(棄教者)のキチジロー以外は踏み絵に足をかけられずに、海の中で磔にされる。磔刑にされる村人を前に何もできなかった自分の無力さに打ちのめされるロドリゴ…。その後、キチジローに密告され長崎の牢に囚われる。長崎奉行井上筑後守はロドリゴに棄教させるためにロドリゴのかつての恩師、フェレイラに自分と同じように転ぶことを奨めさせたり、村人を簀巻きにして海に沈めるなどの迫害を見せ付ける。ロドリゴは使徒達の苦しみの前に何もしてやれない。神も沈黙を守っている。自己の中で錯乱するロドリゴ。そしてイエスへの深い愛と失望と怒りの中で踏み絵に足を差し出す。

松村禎三

沈黙

SILENCE / Matsumura Teizo

全2幕〈日本語上演／字幕付〉

指揮……………下野竜也
Conductor Shimono Tatsuya

演出……………宮田慶子
Production Miyata Keiko

美術……………池田ともゆき
Scenery Design Ikeda Tomoyuki

衣裳……………半田悦子
Costume Design Handa Etsuko

照明……………川口雅弘
Lighting Design Kawaguchi Masahiro

	〈15日・17日・19日〉	〈16日・18日〉
ロドリゴ……………	小餅谷哲男 Komochiya Tetsuo	小原啓楼 Ohara Keiroh
フェレイラ……………	久保和範 Kubo Kazunori	与那城 敬 Yonashiro Kei
ヴァリニャーノ……………	成田博之 Narita Hiroyuki	大沼 徹 Onuma Toru
キチジロー……………	星野 淳 Hoshino Jun	桒 貴志 Masu Takashi
モキチ……………	経種廉彦 Idane Yasuhiko	鈴木 准 Suzuki Jun
オハル……………	高橋薫子 Takahashi Nobuko	石橋栄実 Ishibashi Emi
おまつ……………	与田朝子 Yoda Asako	増田弥生 Masuda Yayoi
少年……………	山下牧子 Yamashita Makiko	小林由佳 Kobayashi Yuka
じさま……………	大久保 眞(全日) Okubo Makoto	
老人……………	大久保光哉(全日) Okubo Mitsuya	
チョウキチ……………	加茂下 稔(全日) Kamoshita Minoru	
井上筑後守……………	島村武男 Shimamura Takeo	三戸大久 Sannohe Hirohisa
通 辞……………	吉川健一 Yoshikawa Kenichi	町 英和 Machi Hidekazu
役人・番人……………	峰 茂樹(全日) Mine Shigeki	
合 唱……………	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽……………	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra	

2012年2/15(水) 6:30 2/18(土) 2:00
 2/16(木) 6:30 2/19(日) 2:00
 2/17(金) 2:00

中劇場

【チケット料金(税込)】

S : 15,750円・A : 12,600円・B : 8,400円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2011.10/9(日)

沈黙

SILENCE / Matsumura Teizo

指揮：下野竜也

Conductor : Shimono Tatsuya

1969年鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール優勝と齋藤秀雄賞受賞、01年ブザンソン国際青年指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴び、以降国際的な活動を展開。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ミラノ・ヴェルディ交響楽団、ストラスブル・フィルハーモニー管弦楽団、ボルドー管弦楽団、ロワール管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団など各国のオーケストラに次々と客演を重ね、09年はローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団、チェコフィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会に招かれ好評を博した。10年3月にはシュトゥットガルト放送交響楽団へのデビューを飾り、10月はカンヌPACA管弦楽団に再客演。11年は南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団へのデビューが決定している。10年のサイトウ・キネン・フェスティバル松本では、レジデント・コンダクターとして、子どものための音楽会などを担当したほか、小澤征爾氏に託され、代役としてオーケストラ演奏会4公演を指揮。責務を見事に果たし、フェスティバルに貢献した。06年より読売日本交響楽団の初代正指揮者を務めている。07年からは上野学園大学音楽・文化学部教授として後進の指導にも情熱を注いでいる。新国立劇場初登場。



演出：宮田慶子

Production : Miyata Keiko

東京都出身。1980年、劇団青年座(文芸部)に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきといき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。新国立劇場演劇研修所講師・サポート委員。社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。2008年9月1日より新国立劇場演劇芸術参与、10年9月新国立劇場演劇芸術監督に就任。主な受賞歴に、1994年第29回紀伊国屋演劇賞個人賞、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞、98年芸術選奨文部大臣新人賞、2001年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞など。上記以外の主な演出作品に、『妻と社長と丸ちゃん』『千里眼の女』(青年座)、『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『紫式部ものがたり』『ガブリエル・シャネル』(松竹)、『ノイズズオフ』『エレファントマン』(ホリプロ)、『ふたたびの恋』『LOVE30』(バルコ)、『伝説の女優』(アトリエ・ダンカン)など。新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』『ヘッダ・ガーブレル』を演出している。本作品がオペラの初演出となる。

ロドリゴ：小餅谷哲男

Rodrigo : Komochiya Tetsuo

大阪音楽大学首席卒業、同大学院オペラ研究室修了。第3回新人音楽コンクール第1位、第25回イタリア声楽コンクールソテノール特賞、大阪府芸術劇場奨励新人賞受賞。ミラノ・国立ヴェルディ音楽院、アカデミア・ヴェルディアーナでカルロ・ベルゴンツィに師事。1996年ポーランド第35回モニュシュコ・フェスティバルに招聘され、ポーランドの国民オペラ『ハルカ』に初の日本人テノールとして主演。これまでに『愛の妙薬』ネモリーノ、『アイーダ』ラダメス、『トスカ』カヴァラドッシ、『フィデリオ』フロレスタン、『ナクス島のアリアドネ』テノール歌手／バックス、『さまよえるオランダ人』エリックなどに出演。2003年ザ・カレッジ・オペラハウス公演『沈黙』ロドリゴ役で音楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞グランプリを受賞。新国立劇場には05年地域招聘公演ザ・カレッジ・オペラハウス『沈黙』ロドリゴに出演し、文化庁芸術祭大賞を受賞。関西二期会会員、関西歌曲研究会会員。



沈黙

SILENCE / Matsumura Teizo

ロドリゴ：小原啓楼

Rodrigo : Ohara Keiroh

東京藝術大学声楽科卒業。卒業時に第10回松田トシ賞受賞。同大学院修士課程オペラ科及び、博士号取得。日伊声楽コンクール第3位並びに歌曲賞受賞。その他のオペラでは『カプレーティ家とモンテッキ家』テバルド、『ナクスス島のアリアドネ』舞踏教師、『こうもり』アルフレート、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、『ラ・チェネレトラ』王子ラミーロ、『イドメネオ』イダマンテ、『フィガロの結婚』バジリオ、東京二期会公演『蝶々夫人』ピンカートン、『オテロ』カシオで高い評価を得ている。いずれも存在感と華のある美声と演唱を印象付け、『夕鶴』と与ひょう、『愛の妙薬』ネモリーノへの出演へと続く。新国立劇場には10年『鹿鳴館』久雄に出演。こどものためのオペラ劇場への出演も多く06年『スペース・トゥーランドット』キャプテン・レオで好演、07年再演、08年『ジークフリートの冒険』ジークフリートにも出演、11年2月『夕鶴』と与ひょうで出演予定。二期会会員。



フェレイラ：久保和範

Ferreira : Kubo Kazunori

東京藝術大学、及び同大学院修士課程独唱科修了。文化庁オペラ研修所修了。平成7年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークに留学。第3回奏楽堂日本歌曲コンクール奨励賞受賞。第1回ヴォーチェプリランテコンクール第1位優勝。高松短期大学学長賞受賞。兵庫県知事賞受賞。第6回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位入賞。芸大オペラ『ドン・ジョヴァンニ』の騎士長でオペラデビュー以後、愛知万博開催記念特別公演オペラ『カーリュウリバー』（豊田市）に渡守、東京二期会公演『フィガロの結婚』タイトルロール、『天国と地獄』神々の王ジュピター、『椿姫』ドゥフォール男爵、『ドン・ジョヴァンニ』レポレツロ、『蝶々夫人』シャープレス、Bunkamura オペラ『トゥーランドット』、新国立劇場にはオープニング公演『建・TAKERU』稲置、『天守物語』武田播磨守、『トスカ』シャルローネ、『リゴレット』マルツロ、『光』インダ、08年『ドン・ジョヴァンニ』マゼットで出演している。二期会会員。



フェレイラ：与那城 敬

Ferreira : Yonashiro Kei

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。大学卒業後才能を認められ声楽に転向、同大学研究科声楽専攻修了。二期会オペラ研修所第46期本科修了。修了時に奨励賞を受賞。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、中田喜直賞受賞。マリオ・デル・モナコ国際声楽コンクール（イタリア・マルサラ）第3位（1位なし）入賞。2006年、東京二期会公演『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『エウゲニ・オネーギン』オネーギン役に抜擢される。常に期待に応え重責を果たしている。新国立劇場には10年の『愛の妙薬』ベルコーレ役で海外の著名な歌手たちとの共演でも際立つ存在感を示した。また『鹿鳴館』影山悠敏伯爵に抜擢された。二期会会員。



ヴァリニャーノ：成田博之

Valignano : Narita Hiroyuki

国立音楽大学声楽学科卒業。同大学院オペラコース修了。二期会オペラ研修所修了。文化庁オペラ研修所修了。第8回日本声楽コンクール第1位。第69回日本音楽コンクール第3位入賞。同時に木下賞を受賞。第5回藤沢オペラコンクール第2位入賞など、数々の栄誉に輝く。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアにて研修を積む。2003年アテネで開催された「国際ミロプーロス声楽コンクール」で最高位入賞（順位なし）。『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『セビリアの理髪師』フィガロ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『カルメン』エスカミーリョなどのほか、『祝い歌が流れる夜に』や『那須与一』等にも出演。また東京二期会『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『賢い女』ラバを連れた男といずれも好評を博す。新国立劇場には07年『西部の娘』ベツロ、10年『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『トリスタンとイゾルデ』舵取りなどに出演。二期会会員。



沈黙

SILENCE / Matsumura Teizo

ヴァリニャーノ：大沼 徹

Valignano : Onuma Toru

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業、同大学院修了。大学院在学中、東海大学海外派遣留学生としてベルリン・フンボルト大学へ留学。二期会オペラ研修所第51期マスタークラス修了。修了時に最優秀賞及び川崎静子賞受賞。2010年秋よりドイツ・マイセンへ留学。第17回日本声楽コンクール第3位。第75回日本音楽コンクール(歌曲部門)入選。第7回藤沢オペラコンクール奨励賞。09年第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門第1位受賞。第21回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。オペラでは『セビリアの理髪師』フィガロ、『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ウリッセの帰還』ウリッセ等に出演。10年には東京二期会『オテロ』イアーゴに大抜擢され、スケールの大きな演唱は絶賛を浴びた。続く『魔笛』パパゲーノでも聴衆を魅了。東京二期会『サロメ』ヨハナーンに出演予定。新国立劇場初登場。二期会会員。



オハル：高橋薫子

Oharu : Takahashi Nobuko



国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。田島好一氏に師事。第23回ジロー・オペラ賞新人賞、第26回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞など受賞多数。1991年から93年まで五島記念文化財団の奨学生としてミラノに留学。90年藤原歌劇団公演『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナで本格的オペラデビュー。2001年チョン・ミョンファン指揮『魔弾の射手』、02年東京室内歌劇場プーランク作曲『声』、07年『アルチーナ』にも出演。最近では09年びわ湖ホール・神奈川県民ホール『トゥーランドット』リユー、藤原歌劇団公演『愛の妙薬』アディーナ、10年『タンクレーディ』アメナイーデに出演し歌唱力と演技力を高く評価されている。新国立劇場には1998年『魔笛』パパゲーナで初登場、2000年と01年、08年『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、02年『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルに出演。藤原歌劇団団員。

オハル：石橋栄実

Oharu : Ishibashi Emi

大阪音楽大学卒業。同大学音楽学部専攻科声楽専攻修了。オペラデビューである1998年『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル役で好演し、ドイツ・ケムニッツ市立歌劇場に同役で招聘される。その後も関西中心に出演し、いずれも高い評価を得る。オハル役で出演したザ・カレッジ・オペラハウス2003年公演『沈黙』は、大阪文化祭グランプリ及び音楽クリティック・クラブ賞、05年10月の再演は文化庁芸術祭大賞を受賞した。これまでに『イドメネオ』イーリア、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ツェルリーナ、『フィデリオ』マルツェリーネ、『こもり』アデーレ、『火刑台上のジャンヌダルク』ジャンヌダルク、『アルバート・ヘリング』エミー、『電話』ルーシー、『ヒロシマのオルフェ』若い娘のちに看護婦、『欲望という名の電車』ステラなどを演唱。また、リサイタルや、モーツァルト『レクイエム』、ベートヴェン『第九』などのソリストとしても活躍。大阪音楽大学助教。



さまよえるオランダ人

2012.3/8 ~ 20

レパートリー
Repertoire

Der fliegende Holländer

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初 演：1843年1月2日 ドレスデン宮廷劇場

台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー Richard Wagner (1813-1883)

暗黒の海をさまようオランダ人を救う永遠の愛。ワーグナーの出世作！

演出選定にあたって

ドイツオペラの巨匠であり、尾高芸術監督がこよなく愛するワーグナーの強烈な個性が引き立つ初期の大傑作。永遠に海をさまよい続けなければならない呪いを受けたオランダ人船長を、彼に魅せられた乙女ゼンタの愛が救うという物語で、この「愛と自己犠牲による救済」は以後のワーグナー作品に共通するテーマとなっています。2004年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』の新企画挑戦で見事なチームワークを見せたM.v.シュテークマン（演出）、堀尾幸男（美術）、ひびのこづえ（衣裳）のタッグで取り組んだ2007年初演は、音楽に織り込まれたメッセージに正面から向き合った明解な舞台運びで、愛と死と救済のドラマを現代に蘇らせました。俊英ネトピルの指揮や、ワーグナー歌手たちの熱唱、迫力満点のオーケストラ、「水夫の合唱」にもご期待ください。

作品解説

ワーグナーの強烈な個性が引き立つ初期の“ロマン的オペラ”の大傑作。神を呪った罰で、永遠に海をさまよい続けなければならないという、ヨーロッパに古くから伝わる幽霊船伝説や、ドイツの詩人ハイネの寓話「フォン・シュナーベレヴォブスキー氏の回想記」に収められた『さまよえるオランダ人』の物語をヒントに、オランダ人船長の呪われた運命を彼に魅せられた乙女ゼンタの愛が救うというオペラに仕上げました。この「(女性の)愛と自己犠牲による救済」は以後のワーグナー作品に共通するテーマとなっています。また、ひとつの音楽的転換点となった作品でもあります。古典的な手法を残しつつ、特定の状況や人物の行動様式に対して、これを表わす音楽的要素（モチーフ）を自由な発想で当てはめていくという、新しい表情方法を創造しようとしていました。迫力満点のオーケストラや、水夫の合唱〈舵手よ、見張りをやめよ〉など有名な合唱曲、幽霊船の登場シーンや演出家の解釈が注目される幕切れなど、聴きどころ、見どころに溢れる作品です。長大な作品が多いワーグナー作品の中では、上演時間（休憩込み）は約3時間と短く、初めてワーグナーのオペラを観る人にも最適なオペラです。序曲の終結部と全曲の幕切れに“救済のモチーフ”があるかないか、プロダクションへの興味の一つとなるところで、本プロダクションでは、最後にハーブによる救済のメロディが流れます。

あらすじ

ノルウェー船が、嵐を避け入り江に船の錨をおろしている。そこへ突然黒いマストに赤い帆を張った幽霊船が現れる。幽霊船のオランダ人船長には、貞節を捧げる女性が現れるまで解けることのない呪いがかけられ、死ぬことも許されず、7つの海をさまよい続けなければならなかった。7年に1度だけ許されている上陸の機会が到来し、寄港地で出会ったノルウェー船の船長ダーラントに、娘を自分の妻にできないかと求める。ダーラントの娘ゼンタは、「さまよえるオランダ人」伝説を信じ、自分だけがオランダ人を救うことができると確信を持っている。ゼンタはオランダ人との運命的な出会いを果たすと、彼との結婚を承諾する。ところが、ゼンタを愛する獵師のエリックが、彼女の心変わりを責め、必死で引き戻そうとする。このやり取りを聞いたオランダ人は、救済への道が閉ざされたと叫び、自分の素姓を明かして、再び永遠にさまよう海へ出帆を命じる。これを追うゼンタは、永遠の愛でオランダ人を救うべく海中に身を投じる。呪縛が解けた幽霊船は轟音とともに沈み、オランダ人の呪いが解けて安らかな死が訪れる。



2007年公演より

R. ワーグナー

さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer / Richard Wagner

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………	トマーシュ・ネトピル
Conductor	Tomas Netopil
演出……………	マティアス・フォン・シュテークマン
Production	Matthias von Stegmann
美術……………	堀尾幸男
Scenery Design	Horio Yukio
衣裳……………	ひびのこづえ
Costume Design	Hibino Kodue
照明……………	磯野 睦
Lighting Design	Isono Mutsumi
ダーラント ……	ディオゲネス・ランデス
Daland	Diogenes Randes
ゼンタ ……	ジェニファー・ウィルソン
Senta	Jennifer Wilson
エリック ……	トミスラフ・ムツェック
Erik	Tomislav Muzek
マリー ……	竹本節子
Mary	Takemoto Setsuko
舵 手……………	望月哲也
Steermann	Mochizuki Tetsuya
オランダ人 ……	エフゲニー・ニキティン
Holländer	Evgeny Nikitin
合 唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2012年3/8（木）6：30 3/17（土）2：00
 3/11（日）2：00 3/20（火・祝）2：00
 3/14（水）6：30
 オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：21,000円・A：15,750円・B：10,500円・C：6,300円・D：3,150円

【前売開始】2011.10/8（土）

さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer / Richard Wagner

指揮：トマーシュ・ネトピル

Conductor : Tomas Netopil

1975年チェコ生まれ。チェコおよびストックホルムの王立音楽カレッジでヴァイオリンと指揮を学ぶ。2002年に第1回サー・ゲオルク・ショルティ指揮者コンクール1位。2009 / 2010シーズンよりブラハ国立歌劇場の音楽監督。これまでにザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、トリノ歌劇場、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場、ナポリのサン・カルロ歌劇場などに登場。『イドメネオ』『後宮からの誘拐』『ドン・ジョヴァンニ』『売られた花嫁』『カーチャ・カバノヴァー』『ルサルカ』などを振っている。10年に初めてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団を指揮するなど、コンサートでも活躍する新鋭として注目を集めている。日本では07年NHK交響楽団を指揮している。新国立劇場初登場。



演出：マティアス・フォン・シュテークマン

Production : Matthias von Stegmann

ミュンヘン生まれ。テレビや映画の翻訳、台本、演出家、俳優として活動を開始。1991年よりバイロイト音楽祭に参加、以来第一演出助手を務める。2002年英国ロイヤルオペラ『ヴォツェック』、04年『ニーベルングの指環』（共にK.ウォーナー演出）でも演出補として参加するなど、多くの演出家の信頼を得ている。03年メトロポリタン歌劇場『後宮からの逃走』では太守セリム役で出演。自ら音楽劇の執筆、演出も手掛けている。新国立劇場では開場記念公演『ローエングリン』でW.ワーグナーの演出助手を務めて以来、『アラベッラ』『魔笛』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『ニーベルングの指環』に参加。07年2月には『さまよえるオランダ人』で本格的オペラ演出デビューを果たし、08年は『魔弾の射手』演出を手がける。また、04年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』台本・演出を担当、大絶賛を博しウィーン国立歌劇場特設劇場でも上演された。2011/2012シーズンは『ローエングリン』新演出が予定されている。

ダーラント：ディオゲネス・ランデス

Daland : Diogenes Randes

ブラジル出身。2007年よりバイロイト音楽祭に出演し、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『パルジファル』ティトウレル、『ラインの黄金』『ジークフリート』ファフナー、『さまよえるオランダ人』ダーラントを歌っている。ほかにもハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、エジンバラ音楽祭などに出演。『タンホイザー』領主ヘルマン、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』夜警、『ローエングリン』ハインリッヒ国王、『ラインの黄金』ファウゾルトなどワーグナー作品のほか、『ドン・カルロ』フィリッポ二世と宗教裁判長、『シモン・ボッカネグラ』ヤコボ・フィエスコ、『運命の力』ガルディアーノ神父、『マクベス』バンクォー、『ノルマ』オロヴェージュ、『ルチア』ライモンドなど幅広いレパートリーを持つ。今後は、バイエルン州立歌劇場、パリ、バルセロナ、トゥールーズなどでの出演が予定されている。新国立劇場初登場。



ゼンタ：ジェニファー・ウィルソン

Senta : Jennifer Wilson

アメリカのバージニア州フェアファックス生まれ。2002年にコネティカット・オペラで『トゥーランドット』タイトルロールを歌いオペラデビュー。その後もシカゴ・リリック・オペラ、ワシントン・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ハンブルク州立歌劇場、パリ・シャトレ座、フィレンツェ歌劇場、オーストラリア歌劇場など世界各地に登場。『アイーダ』タイトルロール、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『ワルキューレ』ヘルムヴィーゲ、『神々の黄昏』ブリュンヒルデ、グートルーネ、ノルンなどのレパートリーを持つ。今後はライブツィヒ歌劇場、香港音楽祭、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場などに出演予定。新国立劇場初登場。

さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer / Richard Wagner

エリック：トミスラフ・ムツェック

Erik : Tomislav Muzek

ドイツのジーゲン生まれ（家族はクロアチア出身）。ウィーン音楽大学で学ぶ。2002年バイエルン州立歌劇場の『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオで大きな成功を収める。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）、ハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ボローニャ歌劇場、パリ・オペラ座、バイロイト音楽祭、ルール・トリエンナーレなどヨーロッパ各地に登場。『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『愛の妙薬』ネモリーノ、『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『エウゲニ・オネーギン』、『サロメ』ナラボート、『イドメネオ』アルバーチェなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定として、ザグレブでプッチーニの『グロリア・ミサ』、ベルリンで『ラ・ボエーム』、ハノーファーで『ファウスト』などがある。新国立劇場初登場。



マリー：竹本節子

Mary : Takemoto Setsuko



大阪音楽大学声楽科卒業。これまでに『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『ラインの黄金』エルダ、『真夏の夜の夢』ヒポリタ等、メゾソプラノ、アルトの主要な役を好演。1988年『カルメン』タイトルロールでは、その充実した確かな歌唱力と演技力で多くの期待に応えた。98年東京二期会『シンデレラ』タイトルロールに抜擢され、「美しく豊かな声を駆使しての見事な主役ぶり（朝日新聞）」等々各方面より絶賛された。新国立劇場公演では2002年『ルチア』アリーナ、05年『フィガロの結婚』マルチェリーナと『アンドレア・シェニエ』マデロン（10年にも出演）、07年『さまよえるオランダ人』マリー、10年『神々の黄昏』第一のノルン、2010/2011シーズン開幕公演の『アラベッラ』アデライデに出演。二期会会員。

オランダ人：エフゲニー・ニキティン

Holländer : Evgeny Nikitin

1973年ロシアのムルマンスク生まれ。92年にサンクト・ペテルブルク音楽院に入学。弱冠23歳でマリンスキー劇場とソリストとして契約。以来、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、パリ・シャトレ座、ライプツィヒ歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などに出演。『フィデリオ』ドン・ビツァロ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ボーグナー、『ラインの黄金』ファールツ、『ジークフリート』さすらい人、『ローエングリン』テルラムント、『パルジファル』クリングゾール、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレストなど幅広いレパートリーを持つ。98年に初来日。最近では、2005年のゲルギエフ指揮マリンスキー・オペラ『ニーベルングの指環』ヴォータンで来日。新国立劇場初登場。



オテロ

レパートリー
Repertoire

Otello

オペラパレス | 5回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1887年2月5日 ミラノ・スカラ座

作 曲：ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)

台 本：アッリーゴ・ボーイト Arrigo Boito

嫉妬が招いた英雄オテロの栄光からの転落。ヴェルディ晩年の最高傑作！

演目選定にあたって

2009/2010シーズンの開幕を華やかに飾った、シェイクスピアの悲劇に基づくオペラで、晩年のヴェルディが7年の歳月をかけて作曲した、イタリア・オペラ悲劇の頂点に立つ作品です。演出のマルトーネは、物語の舞台をキプロス島からヴェネツィアに移し、ステージ上に50トンもの水をたたえた運河を蜘蛛の巣の如く配し、水面の表情や色でオテロの妄想やイアーゴによって張り巡らされた陰謀を視覚化。美しく迫力のあるプロダクションは新国立劇場のレパートリーとして、観客に永く愛されるものであると考えます。難役オテロは、『トゥーランドット』カラフや『アイーダ』ラダメスで新国立劇場に強靱な美声を響かせたフラッカーロで、今シーズン開幕公演の『イル・トロヴァトーレ』マンリーコでも登場します。デズデーモナは人気急上昇のポプラフスカヤが新国立劇場初登場。松位浩、小原啓楼等、脇を固める日本人キャストの活躍にもご期待ください。

作品解説

ヴェルディが「生涯の師」として仰いだシェイクスピアの四大悲劇の一つ『オテロ』が原作。初めから終りまで連綿と続く音楽と言葉を密着させることによって、人間の心の奥底を雄弁に描いたヴェルディ晩年の傑作です。台本は先鋭的な詩人であり、オペラの作曲家でもあったボーイトによるもので、二人は最高のパートナーとして、続く『ファルスタッフ』(1893年)でもコンビを組み傑作の誕生となりました。主人公オテロが褐色の肌をしたムーア人(ヨーロッパ人が、北西アフリカに住むイスラム教徒をさした呼称)であることから、ヴェルディとボーイトの間でこの創作プロジェクトを“チョコレート”と呼びつつ、構想から7年もの歳月をかけて完成させました。初演は1887年ミラノ・スカラ座。前作『アイーダ』でそれまでのイタリア・オペラの伝統の総括をやったのけたヴェルディが、今度は自らの芸術理念に突き動かされて作り上げた、ひとつの到達点といえます。そこには旧来のオペラのスタイルは存在せず、ドイツ・オペラの巨匠で同い年のワーグナーとは違う新しい形での、「音楽によるドラマ」が存在しています。

あらすじ

15世紀。島の人々の待つ中、ムーア人ながら新総督としてトルコ艦隊を破ったオテロ一行が嵐の中凱旋。オテロを恨む旗手イアーゴは、オテロの妻デズデーモナに恋するロデリーゴに陰謀を持ちかけ、ライバルの副官カッシオに酒を飲ませる。泥酔し刃傷沙汰を起こしたカッシオは、オテロに解任されてしまう。落ち込むカッシオにイアーゴは、デズデーモナにとりなしを頼むよう囁き、デズデーモナとカッシオの仲を疑わせるよう仕向ける。猜疑心を持ち始めたオテロは、カッシオの復職をとりなす妻に苛立ち、差し出されたハンカチを投げ捨てる。イアーゴは密かにそれを入手。何も知らないデズデーモナは、再び夫にカッシオの赦免を願うが、オテロは耳を貸さず、逆に自分が贈ったハンカチをなくした妻を責め、不倫の疑惑をいよいよ深めていく。イアーゴが画策し、カッシオがなくなったハンカチを取り出すのを見たオテロは妻を殺すことを決意。そこへヴェネツィア公使が到着し、カッシオがオテロの後継者として統治者になることが決まったと公告すると、オテロは妻を突き飛ばし彼女を罵る。夫の振る舞いを理解できず、デズデーモナは死を憶えつつも祈り、床につく。オテロが入ってきて、妻が身の潔白を主張するにもかかわらず、彼女の首を締める。その直後駆けつけた人々から事の真相が明らかにされるが時すでに遅く、すべてを知ったオテロは最愛の妻の死を嘆きつつ自らの胸に剣を突き立てる。



2009年公演より

G. ヴェルディ

オテロ

Otello / Giuseppe Verdi

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………ジャン・レイサム＝ケーニック
Conductor Jan Latham-Koenig

演出……………マリオ・マルトーネ
Production Mario Martone

美術……………マルゲリータ・パッリ
Scenery Design Margherita Palli

衣裳……………ウルスラ・パーツァック
Costume Design Ursula Patzak

照明……………川口雅弘
Lighting Design Kawaguchi Masahiro

オテロ……………ヴァルテル・フラッカーロ
Otello Walter Fraccaro

デズデーモナ……………マリーナ・ポプラフスカヤ
Desdemona Marina Poplavskaya

イアーゴ……………ミカエル・ババジャニアン
Iago Mikael Babajanyan

ロドヴィーコ……………松位 浩
Lodovico Matsui Hiroshi

カッシオ……………小原啓楼
Cassio Ohara Keiroh

エミーリア……………手嶋眞佐子
Emilia Teshima Masako

ロデリーゴ……………内山信吾
Roderigo Uchiyama Shingo

モンターノ……………久保田真澄
Montano Kubota Masumi

伝 令……………未定
A Herald TBA

合 唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2012年4/1（日）2：00 4/10（火）6：30
4/4（水）2：00 4/13（金）2：00
4/7（土）2：00
オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円

【前売開始】2011.11/5（土）

オテロ

Otello / Giuseppe Verdi

指揮：ジャン・レイサム＝ケーニック

Conductor : Jan Latham-Koenig

1953年ロンドン生まれ。ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージックで学ぶ。オペラおよびコンサートの指揮者として世界各地で活躍。88年に『マクベス』でウィーン国立歌劇場に初登場。ほかにも英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、ローマ歌劇場、デンマーク王立歌劇場、フィンランド国立歌劇場、ブエノスアイレスのコロン劇場などでオペラを指揮。日本には91年より、東京都交響楽団や、オーケストラ・アンサンブル金沢、新日本フィルハーモニー交響楽団に客演。最近ではすみだトリフォニーホールでのファジル・サイ・プロジェクトin TOKYO 2008に参加。モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニ、ビゼー、ワーグナー、R.シュトラウス、ブリテン、ドビュッシー、ヤナーチェクなど幅広いオペラレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。



演出：マリオ・マルトーネ

Production : Mario Martone

ナポリ生まれ。前衛演劇でキャリアをスタートさせ、演劇グループ「Falso Movimento」と「Teatri Uniti」を設立。1992年からは映画監督としても活躍。複数の映画がカンヌ映画祭で上映されている。オペラでは、英国ロイヤルオペラ、マドリードのレアル劇場、ナポリ、フィレンツェ・テアトロ・コムナーレ、シャンゼリゼ劇場などで演出を手掛けている。これまで演出した作品は、『コジ・ファン・トゥッテ』『ルル』『ドン・ジョヴァンニ』『仮面舞踏会』『フィガロの結婚』『ファルスタッフ』などが挙げられる。映画監督としての手腕とその実績としては、91年『あるナポリの数学者の死』が代表作でありヴェネツィア映画祭のグランプリを始め数々の賞を受賞している。また、第48回カンヌ国際映画祭(95年5月)では、『L'amore molesto』がコンペティション部門において上映されている。第53回カンヌ国際映画祭(2000年5月)では審査委員を務めている。新国立劇場には09年の本プロダクションで初登場となった。



オテロ：ヴァルテル・フラッカーロ

Otello : Walter Fraccaro

イタリアのカステルフランコ生まれ。1994年にバルセロナのリセウ劇場の『ナブッコ』でオペラデビュー。以来、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、マドリードのレアル劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界各地の歌劇場に出演。『アイーダ』ラダメス、『仮面舞踏会』リッカルド、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『オテロ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『カルメン』ドン・ホセ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなど幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場には2003年『アイーダ』ラダメス、08年『トゥーランドット』カラフに出演。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』マンリーコにも出演。



デズデーモナ：マリーナ・ポプラフスカヤ

Desdemona : Marina Poplavskaya

モスクワ生まれ。イッポリトフ・イワノフ国立音楽院で学ぶ。モスクワのニュー・オペラ・シアターで『エウゲニ・オネーギン』タチヤナでオペラデビュー。これまで英国ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、モネ劇場、バルセロナのリセウ劇場、メトロポリタン歌劇場、ボリショイ劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『椿姫』ヴィオレッタ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『オテロ』デズデーモナ、『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、『カルメン』ミカエラ、『神々の黄昏』ノルン、『ファウスト』マルグリートなど幅広いレパートリーを持つ。2011/2012シーズンにはウィーン国立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』とバイエルン州立歌劇場『椿姫』にデビュー予定。新国立劇場初登場。



オテロ

Otello / Giuseppe Verdi

イアーゴ: ミカエル・ババジャニアン

Iago : Mikael Babajanyan

アルメニアのエレヴァン生まれ。同市の国立音楽院で声楽と指揮を学ぶ。その後ドイツでもさらに研鑽を積む。アルメニア国立歌劇場のアンサンブルメンバーとしてオペラデビュー。これまでにケルン歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、エッセンのアールト劇場、ハノーファー州立歌劇場、ボン歌劇場、サヴォンリンナ・オペラフェスティバルなどに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『蝶々夫人』シャープレス、『椿姫』ジェルモン、『オテロ』イアーゴ、『アイーダ』アモナスロ、『ファルスタッフ』フォード、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『スペードの女王』エレッスキー公爵など幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。



ロドヴィーコ: 松位 浩

Lodovico : Matsui Hiroshi

京都市生まれ。大阪音楽大学卒業、同大学院修士課程歌劇専攻を全秀の成績で修了。ベルリン芸術大学在学中よりヴェルツブルク市立劇場、ダルムシュタット州立歌劇場との専属契約を経て、ザールラント州立劇場首席バス歌手として招聘され現在に至る。また2002年ザルツブルク祝祭劇場『トリスタンとイゾルデ』マルケ王で指揮者・演出家のみならず国内外のメディアからも非常に高い評価を得る。ザールラント州立劇場『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『ラ・ボエーム』コッリーネなど、ヨーロッパで活躍している。10年びわ湖ホール『トリスタンとイゾルデ』マルケ王は存在感のある歌唱で好評を博した。新国立劇場には06年『さまよえるオランダ人』ダーラント、09年『魔笛』ザラストロに出演している。

ドン・ジョヴァンニ

2012.4/19 ~ 29

レパートリー
Repertoire

Don Giovanni

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1787年10月29日 プラハ国立劇場

作 曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台 本：ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

天才モーツァルトがドラマティックに描いた、伝説の色男ドン・ファン物語。

演出選定にあたって

オペラのラインアップに不可欠なモーツァルト作品の中から、傑出した最重要作と評価される『ドン・ジョヴァンニ』を選びました。新国立劇場では『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』『イドメネオ』に続き3作目の演出となるアサガロフは、18世紀後半の色男ジャコモ・カサノヴァの人物像にドン・ジョヴァンニとの共通点を見つけ、オペラの舞台をカサノヴァの故郷ヴェネツィアに移しながらも、ドン・ジョヴァンニの人物像をオーソドックスな手法で忠実に表現しています。メトロポリタン歌劇場等で人気を博し、現在望みうる最高のドン・ジョヴァンニといわれるクヴィエチェンや、2008年初演でドンナ・エルヴィーラを演じたミコライ、アメリカの新星キャベル、巧妙な演技力で新国立劇場オペラの様々な役柄を好演する妻屋秀和や、ウィーンで活躍する平野和などバランスのとれたアンサンブルもお楽しみいただけることでしょう。モーツァルト円熟期の傑作をお見逃しなく。

作品解説

モーツァルトはウィーンでの第1作『後宮からの逃走』によってオペラの分野でもかなりの成功を収めていましたが、当時オペラ作曲家として認められるためには、イタリア・オペラで成功する必要がありました。そこで、満を持してボーマルシェの喜劇『フィガロの結婚』を宮廷詩人ダ・ポンテの台本で上演、大成功を収めました。円熟期に入ったモーツァルトが次に選んだ作品が『ドン・ジョヴァンニ』で、前作と同じダ・ポンテが台本を書きました。主人公のドン・ファン（イタリア語でドン・ジョヴァンニ）は、14世紀頃に実在したとされるスペインの伝説的な人物で、モリエールの性格喜劇の三大傑作の一つともいわれる名作『ドン・ジュアンまたは石像の客』（1665）やバイロンの詩など、数々の作品に登場しています。その音楽は、主人公のドン・ジョヴァンニの性格に負けず劣らず、官能とみなぎる力に溢れています。スタンダードは『『ドン・ジョヴァンニ』を聴くためなら、百里の道でも歩いて行く』と称え、ベートーヴェンは、「不道德なオペラ」と考えましたが、内容共々モーツァルトのオペラの中でも特に傑出した重要作と評価されています。

あらすじ

舞台はヴェネツィア（オリジナルは16世紀頃のセビリア）。世界各地で2065人にも及ぶ女性を次々ものにし、従者のレポレッロがそれを「恋人のカタログ」にしてしまうほどの色男ドン・ジョヴァンニが、ある晩、騎士長の娘ドンナ・アンナのもとに忍び込む。ところが、ドンナ・アンナが騒いだため、父親の騎士長に運悪く見つかかり、彼を刺し殺してしまう。その後も、三日間だけ結婚して捨てた女ドンナ・エルヴィーラに追い回されたり、結婚直前の村娘ツェルリーナを口説いたり、性懲りも無く悪行を重ね、放蕩の限りを尽くすが、反省の色は全くない。ツェルリーナをものにしようと、自分の館の舞踏会に村人を招くが、ドン・ジョヴァンニへの怒りに燃えるドンナ・エルヴィーラ、父親の敵を取ろうとするドンナ・アンナ、その婚約者ドン・オッターヴィオが仮面をつけて現れ、ドン・ジョヴァンニの悪行を暴く。ほうほうの体で逃げ出したドン・ジョヴァンニとレポレッロが行きついた先は墓場。そこで、ドン・ジョヴァンニに殺された騎士長の石像が、彼の前に現われる。ドン・ジョヴァンニは不敵にも石像を晚餐に招く。やってきた石像に改悛を迫られるが、あくまでも拒んだため、突然床が割れて、地獄に落とされてしまう。



2008年公演より

W.A. モーツァルト

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	エンリケ・マッツォーラ
Conductor	Enrique Mazzola
演出……………	グリシャ・アサガロフ
Production	Grisha Asagaroff
美術・衣裳……………	ルイジ・ペーレゴ
Scenery and Costume Design	Luigi Perego
照明……………	マーティン・ゲップハルト
Lighting Design	Martin Gebhardt
ドン・ジョヴァンニ……………	マリウシュ・クヴィエチェン
Don Giovanni	Mariusz Kwiecien
騎士長……………	妻屋秀和
Il Commendatore	Tsumaya Hidekazu
レポレッロ……………	平野 和
Leporello	Hirano Yasushi
ドンナ・アンナ……………	アガ・ミコライ
Donna Anna	Aga Mikolaj
ドン・オッターヴィオ……………	ダニール・シュトーダ
Don Ottavio	Daniil Shtoda
ドンナ・エルヴィーラ……………	ニコル・キャベル
Donna Elvira	Nicole Cabell
マゼット……………	久保和範
Masetto	Kubo Kazunori
ツェルリーナ……………	九嶋香奈枝
Zerlina	Kushima Kanac
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2012年4/19（木）6：30 4/27（金）6：30
 4/22（日）2：00 4/29（日）2：00
 4/24（火）2：00
 オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：23,100円・A：18,900円・B：12,600円・C：7,350円・D：4,200円

【前売開始】2011.12/10（土）

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：エンリケ・マッツォーラ

Conductor : Enrique Mazzola

1968年スペインのバルセロナ生まれ。幼少の頃よりヴァイオリンとピアノのレッスンを受け、ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で指揮と作曲を学ぶ。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ベルギー・アントワープのフランドス・オペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭、ミュンヘン・オペラ・フェスティバル、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどで、『セビリアの理髪師』『アルジェのイタリヤ女』『マクベス』『ファルスタッフ』など多くのオペラを指揮している。またコンサート指揮者としても高い評価を得ており、世界各地のオーケストラを指揮。特に現代音楽の演奏に定評がある。91年にリサイタル伴奏で初来日、2000年には新ビッコン劇場日本公演『コジ・ファン・トゥッテ』を指揮、東京フィルハーモニー交響楽団と新日本フィルハーモニー交響楽団(2010年12月の第九)にも客演している。2010/2011シーズンには、グラインドボーン音楽祭、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラなどに出演予定。新国立劇場初登場。



演出：グリシャ・アサガロフ

Production : Grisha Asagaroff

ドイツのジーゲン生まれ。ミュンヘン大学で音楽と演劇を学ぶ。1966年よりバイエルン州立歌劇場で舞台監督、演出助手の仕事を始め、ドルトムント歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラなどで助手を務め、ギュンター・レンネルト、ジャン＝ピエール・ポネルなどのもとで研鑽を積みながら国際的な活動をスタート。82年からチューリッヒ歌劇場、86年からウィーン国立歌劇場首席演出家を務め、現在、チューリッヒ歌劇場芸術監督を務めている。新国立劇場では2004年『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、06年『イドメネオ』、08年『ドン・ジョヴァンニ』の演出を手がけるほか、09年(故)ポネル演出の『チェネレントラ』では、再演演出および演技指導で参加している。

ドン・ジョヴァンニ：マリウシュ・クヴィエチエン

Don Giovanni : Mariusz Kwiecien

ポーランドのクラコフ生まれ。メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ボリショイ劇場など世界各地で活躍。メトロポリタン歌劇場のシーズン開幕を飾った『ルチア』エンリーコは世界46カ国で放送され、DVDにもなった。国際的キャリアを築ききっかけにもなった『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールのほか、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『愛の妙薬』ベルコレ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ロジェ王』タイトルロールなどをレパートリーとする。日本では、小澤征爾音楽塾の『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『カルメン』エスカミリーヨで出演を重ね、2011年には『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵で登場する。2010/2011シーズンは、メトロポリタン歌劇場『ドン・バスクワレ』マラテスタに出演、11年6月同歌劇場日本ツアーにも『ラ・ボエーム』マルチェッロで参加する。新国立劇場初登場。



騎士長：妻屋秀和

Il Commendatore : Tsumaya Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1994年から2001年までライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネにも出演予定。藤原歌劇団員。

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni / Wolfgang Amadeus Mozart

レポレッロ：平野 和

Leporello : Hirano Yasushi

1977年東京生まれ。日本大学芸術学部、ならびにウィーン国立音大修士課程を首席で修了。末芳枝、R. ハンスマン、R. ホルの各氏に師事。2007年グラーツ歌劇場と、08年よりウィーン・フォルクスオーパーと専属歌手として契約。ザルツブルグ・プレゲンツなど主要な国際音楽祭、ウィーン楽友協会・ベルリンフィルハーモニーなど主要ホールに客演し、N. アーノンクール、G. アルブレヒト、B. ヴァイルといった著名な指揮者の下ソリストを務める。バロックから現代にいたるまで広範囲をレパートリーとする。2010/2011シーズンはウィーン・フォルクスオーパーで『魔笛』弁者と武士、『椿姫』医師グランヴィル、『チェネレントラ』アリドーロ、『リゴレット』スパラフチャーレなどで出演予定。新国立劇場には10年『影のない女』霊界の使者で初登場。ウィーン在住。



ドンナ・アンナ：アガ・ミコライ

Donna Anna : Aga Mikolaj

ポーランドのクトノ生まれ。ポーランドおよびウィーン音楽大学で学ぶ。エリザベート・シュワルツコップに師事。1995年から2000年までポーランドのポズナニ大劇場で研鑽を積み、02年から07年までバイエルン州立歌劇場のメンバーとなる。そのほかにもベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ワルシャワ歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、プラハ国立歌劇場などヨーロッパ各地に出演。日本では、小澤征爾指揮のウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラで来日。『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『魔笛』パミーナ、『フィデリオ』マルツェリーネ、『カルメン』ミカエラ、『ファルスタッフ』アリス・フォード、『魔弾の射手』エンヒェンなどのレパートリーを持つ。新国立劇場には08年『ドン・ジョヴァンニ』にドンナ・エルヴィーラで出演。



ドン・オッターヴィオ：ダニール・シュトーダ

Don Ottavio : Daniil Shtoda

1977年ロシア生まれ。13歳でマリンスキー劇場『ボリス・ゴドゥノフ』フョードルでオペラデビュー。99年よりマリンスキー・アカデミーで学んだ後、マリンスキー劇場のソリストとなる。これまでに英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、パリ・シャトレ座、リヨン歌劇場、キーロフ歌劇場、ワシントン・オペラ、メトロポリタン歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、ザルツブルグ音楽祭などに出演。『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『夢遊病の女』エルヴィーノ、『連帯の娘』トニオ、『修道院での婚約』アントニオとトニオなどをレパートリーとする。2009年チョン・ミョンファン指揮東京フィルハーモニー交響楽団『椿姫』（コンサート形式）にアルフレードで出演。2010/2011シーズンも引き続きマリンスキー劇場のソリストとして活躍。新国立劇場初登場。



ドンナ・エルヴィーラ：ニコル・キャベル

Donna Elvira : Nicole Cabell

カリフォルニア生まれ。ニューヨーク州イーストマン音楽学校で声楽を学ぶ。シカゴ・リリック・オペラのメンバーとして数多くのレパートリーを身につける。メトロポリタン歌劇場、ワシントン・オペラ、アトランタ・オペラ、ブエノスアイレスのコロン劇場などアメリカ各地に出演しているほか、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ケルン歌劇場などヨーロッパでも活躍。『魔笛』パミーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人とスザンナ、『イデメネオ』イーリア、『フィデリオ』マルツェリーネ、『愛の妙薬』アディーナ、『カルメン』ミカエラ、『真珠とり』レイラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ロメオとジュリエット』ジュリエット、『利口な女狐』タイトルロールなど幅広いレパートリーを持つ。2005年BBCカーディフ国際声楽コンクール優勝。新国立劇場初登場。



ローエングリン

2012.6/1 ~ 16

新制作
New production

Lohengrin

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初 演：1850年8月28日 ワイマール宮廷劇場

台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー Richard Wagner (1813-1883)

夢見る乙女の前に現れた白鳥の騎士の名は… ワグナー珠玉の名作。

演出選定にあたって

新国立劇場開場記念公演より15年、満を持しての新制作で登場するワーグナーの名作です。1997年の開場記念公演は、ワーグナーの総本山、バイロイト祝祭劇場の当時の総監督で、作曲者の孫でもある（故）ヴォルフガング・ワーグナーによる新演出で、作曲家ワーグナー本人が「自分の作品のうちでもっとも悲劇的なものだ」と語ったこの作品を、重厚な舞台装置と知的で正統的な解釈で創り上げました。今回の新演出を託したのは、バイロイト祝祭劇場で、このW.ワーグナーやキルヒナーといった多くの演出家のアシスタントを15年以上務めて研鑽を積み、新国立劇場『さまよえるオランダ人』（2007年）で本格的オペラ演出デビューを果たしたM.v.シュテークマンです。同じくバイロイトで活躍した美術・衣裳担当のロザリエとのコラボレーションも大変楽しみです。また、現代最高のローエングリンともいわれるフォークトや、メルベート等、第一線で活躍するワーグナー歌手をまとめ上げるのは、ドイツオペラの第一人者として世界各地で高い評価を受けている指揮者ペーター・シュナイダーです。2013年ワーグナーイヤーを半年後にひかえた、新国立劇場の新しい『ローエングリン』にご期待ください。

作品解説

ウェーバーの『魔弾の射手』（1821年）や、ワーグナーの初期から中期にかけて作曲された『さまよえるオランダ人』（1843年）、『タンホイザー』（1845年）などと並ぶ“ロマン的オペラ”の代表作です。イエス・キリストが最後の晩餐で用いた杯をモンサルヴァートにある城で騎士団が守っていたという、中世の聖杯騎士伝説などが題材になっており、ローエングリンはこの騎士団長（聖杯王）パルジファルの子。窮地に陥った乙女の嘆きをはるか彼方から聞きつけ、白鳥が曳く小舟に乗って助けに向かいます。チャイコフスキーが「ワーグナーの手による、最も成功した、かつ最も靈感に満ちた作品」と称した第1幕の前奏曲は、圧倒的な旋律美と崇高な響きで、聴くものを神秘的な世界へいざないます。また、結婚式での音楽として誰もが耳にする〈婚礼の合唱〉や、第3幕のローエングリンが自らの素姓を明かす〈名乗りの歌〉など聴きどころ満載です。ワーグナーはこの作品の完成後、ドレスデンでの暴動に関与したため政治犯として逃亡。親交の深かったリストを頼ってワイマールに向かい、リストが音楽監督を務めるワイマール宮廷劇場で本作品を初演。その後、ワーグナーはリストの娘コジマと結婚しました。

あらすじ

アントワープのシェルデ河畔。東方遠征の兵を招集に来たドイツ国王ハインリッヒの軍隊を、ブラバント公国の人々が迎えている。ブラバントの貴族テルラムントが王に訴え出る。前大公の死後、二人の子が残されたが、領主を継ぐべき弟のゴットフリートが行方不明なのは、姉のエルザが殺害したからだというのである。テルラムントは妻の魔女オルトルートの奸計に乗り、自ら王位を狙っていた。窮地に陥ったエルザは、無実の罪を晴らすため、神明裁判の決闘でテルラムントと戦う代理戦士を立てなくてはならない。エルザの祈りに応えるように、夢に見た騎士が白鳥の曳く小舟にのって現れる。騎士はテルラムントを倒し、エルザの潔白が証明される。騎士は、エルザとの結婚の条件として、決して自分の名前や素性を訪ねないことを誓わせる。しかし、追放を命じられたテルラムントとオルトルートは再び復讐を企む。オルトルートは、エルザに騎士への疑念を吹き込む。エルザは葛藤の末、とうとう婚礼の夜に素性を訪ねてしまう。禁を破られた騎士は、奇襲をかけてきたテルラムントを倒し、聖杯王パルジファルの息子ローエングリンと名乗る。騎士を迎えに現れた白鳥は、オルトルートの魔法がとけてエルザの弟ゴットフリートの姿にもどるが、騎士ローエングリンは消え去る。

R. ワーグナー

ローエングリン

Lohengrin / Richard Wagner

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………	Conductor	ペーター・シュナイダー	Peter Schneider
演出……………	Production	マティアス・フォン・シュテークマン	Matthias von Stegmann
美術・衣裳……………	Scenery and Costume Design	ロザリエ	rosalie
照明……………	Lighting Design	未定	TBA
ハインリッヒ国王……………	Heinrich der Vogler	ギュンター・グロイスベック	Günter Groissböck
ローエングリン……………	Lohengrin	クラウス・フロリアン・フォークト	Klaus Florian Vogt
エルザ・フォン・ブラバント……………	Elsa von Brabant	リカルダ・メルベート	Ricarda Merbeth
フリードリヒ・フォン・テルラムント……………	Friedrich von Telramund	ゲルト・グロホフスキー	Gerd Grochowski
オルトルート……………	Ortrud	スサネ・レースマーク	Susanne Resmark
王の伝令……………	Der Heerrufer des Königs	萩原 潤	Hagiwara Jun
4人のブラバントの貴族……………	Vier brabantische Edle	大槻孝志	Otsuki Takashi
		羽山晃生	Hayama Kosei
		小林由樹	Kobayashi Yoshiki
		長谷川 顕	Hasegawa Akira
小 姓……………	Edelknaben	未定	TBA
合 唱……………	Chorus	新国立劇場合唱団	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団	Tokyo Philharmonic Orchestra

2012年6/1（金）5：00 6/10（日）2：00
6/4（月）2：00 6/13（水）5：00
6/7（木）2：00 6/16（土）2：00
オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円

【前売開始】2012.2/11（土）

ローエングリン

Lohengrin / Richard Wagner

指揮：ペーター・シュナイダー

Conductor : Peter Schneider

ウィーン生まれ。8歳からウィーン少年合唱団員として世界各地で公演。ザルツブルクとハイデルベルクでコレパティートルやカペルマイスターとして経験を積んだ後、ライン・ドイツ・オペラの専属指揮者となり、在任10年間でほぼ全てのオペラレパートリーを習得。1987年よりプレーメンの音楽総監督。81年の『さまよえるオランダ人』以降、定期的にバイロイト音楽祭で指揮。特にショルティの代役として振った『ニーベルングの指環(全4作品)』で世界的な注目を集めた。85年マンハイム州立劇場オペラ兼音楽総監督。1993/1994シーズンよりバイエルン州立歌劇場ならびに州立管弦楽団の首席指揮者を務め、現在も首席客演指揮者を務める。95年に『魔笛』でメトロポリタン歌劇場に初登場。現在もウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場などに定期的に登場。最近では2009年に東京フィルハーモニー交響楽団に客演。今後の主な予定として、11年にウィーン国立歌劇場で『さまよえるオランダ人』『サロメ』『ニーベルングの指環』、バイロイト音楽祭で『トリスタンとイゾルデ』、12年にもバイロイト音楽祭で『トリスタンとイゾルデ』などがある。新国立劇場には07年『ばらの騎士』以来の登場となる。



演出：マティアス・フォン・シュテークマン

Production : Matthias von Stegmann

ミュンヘン生まれ。テレビや映画の翻訳、台本、演出家、俳優として活動を開始。1991年よりバイロイト音楽祭に参加、以来第一演出助手を務める。2002年英国ロイヤルオペラ『ヴォツェック』、04年『ニーベルングの指環』(共にK.ウォーナー演出)でも演出補として参加するなど、多くの演出家の信頼を得ている。03年メトロポリタン歌劇場『後宮からの逃走』では太守セルム役で出演。自ら音楽劇の執筆、演出も手掛けている。新国立劇場では開場記念公演『ローエングリン』でW.ワグナーの演出助手を務めて以来、『アラベラ』『魔笛』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『ニーベルングの指環』に参加。07年2月には『さまよえるオランダ人』で本格的オペラ演出デビューを果たし、08年は『魔弾の射手』演出を手がける。また、04年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』を台本・演出を担当、大絶賛を博しウィーン国立歌劇場特設劇場でも上演された。2011/2012シーズンは07年に手がけた『さまよえるオランダ人』も上演される。

美術・衣装：ロザリエ

Scenery and Costume Design : rosalie

1953年シュトゥットガルト生まれ。シュトゥットガルト大学でドイツ文学と歴史を学んだ後、シュトゥットガルト芸術アカデミーで絵画、ドローイング、舞台美術などを学ぶ。79年よりフリーのデザイナー。アーティストとして数多くのギャラリーや美術館で展覧会を開く。カールスルーエ・アート・アンド・メディアセンター(ZKM)では常設のライト・アートが見られる。81年からヨーロッパ各地の劇場や歌劇場で舞台美術と衣装デザインを手がける。89年から94年までバイロイト音楽祭で『ニーベルングの指環』の舞台美術と衣装デザインを担当。これまでにオペラではほかに『イドメネオ』『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』『ノルマ』『トリスタンとイゾルデ』『サロメ』『エレクトラ』『影のない女』など、演劇では『夏の夜の夢』『嵐』『ファウスト』など、バレエでは『くるみ割り人形』『火の鳥』などを手がけており、ほかにも映画など各ジャンルで現代作品を含め、幅広く活躍している。新国立劇場初登場。



ハインリッヒ国王：ギュンター・グロイスベック

Heinrich der Vogler : Günter Groissböck

オーストリアのヴァイトホーフェン生まれ。ウィーン音楽大学で声楽を学ぶ。ウィーン室内オペラで、ペリの『エウリディーチェ』ブルートを歌ってオペラデビュー。2002/2003シーズンにウィーン国立歌劇場の専属歌手として、『フィデリオ』『ドン・フェルナンド』などを歌う。その後、チューリッヒ歌劇場と契約しとして幅広いレパートリーを身につける。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭、ウィーン祝祭週間などに登場。2011年にはバイロイト音楽祭にデビュー。『魔笛』ザラストロ、『皇帝ティトゥスの慈悲』プブリオ、『マクベス』バンクォー、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ラインの黄金』ファーフナー、『ワルキューレ』フンディング、『ローエングリン』ハインリッヒ国王、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』夜警などのレパートリーを持つ。新国立劇場には09年『チェネレントラ』アリドーロで初登場。

ローエングリン

Lohengrin / Richard Wagner

ローエングリン: クラウス・フロリアン・フォークト

Lohengrin : Klaus Florian Vogt

ドイツのハイデ生まれ。ホルンを学び、ハンブルク・フィルの第一ホルン奏者として活躍する傍らリュベック音楽大学で声楽を学び、1997/1998シーズンよりフレンスブルク歌劇場と、1998年よりザクセン州立歌劇場（ドレスデン・ゼンパー・オペラ）と契約。2003年よりフリー。06年に『ローエングリン』タイトルロールでメトロポリタン歌劇場にデビュー。07年にバイロイト音楽祭に『ニュルンベルクのマイスタージンガー』シュトルツィングでデビュー（カターリナ・ワーグナー演出）。08年にはウィーン国立歌劇場に初登場し、『さまよえるオランダ人』エリック、『ローエングリン』、『死の都』パウルを歌う。ほかにもミラノ・スカラ座、ハンブルク、ケルン、ブリュッセル、アムステルダム、ジュネーヴ、ミュンヘン、東京などで活躍。ワーグナーのほか、『魔笛』タミーノ、『フィデリオ』フロレスタン、『アラベッラ』マッテオ、『影のない女』皇帝、『ルサルカ』王子など幅広いレパートリーを持つ。今後も、11年にパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ドレスデンとベルリンで『トスカ』カヴァラドッシのロールデビュー、12年にベルリン・ドイツ・オペラ、ミュンヘンなど数年先まで引く手あまたである。新国立劇場には05年『ホフマン物語』以来、待望の再登場となる。



エルザ・フォン・ブラバント: リカルダ・メルベート

Elsa von Brabant : Ricarda Merbeth



ドイツのケムニッツ生まれ。ライプツィヒのメンデルスゾーン音楽大学で学ぶ。ドイツ国内の劇場で経験を積んだ後、1999年よりウィーン国立歌劇場と契約、『フィデリオ』マルツェリーネで初登場。2000年バイロイト音楽祭に『ニーベルングの指環』フライア、ゲルヒルデ、ヘルムヴィーゲ、グートルネでデビュー。その後も02年より『タンホイザー』エリーザベトで出演を重ねる。ほかにもバイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、トリノ、東京など世界各地で活躍。『魔笛』パミーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ローエングリン』エルザ、『サロメ』タイトルロール、『影のない女』皇后、『イエヌーファ』タイトルロールなどのレパートリーを持つ。今後の予定としては、パリ・バスチーユ・オペラで『ナクソス島のアリアドネ』、ウィーン国立歌劇場、アムステルダムとマドリッドで『エレクトラ』、トリノで『フィデリオ』レオノーレなどがある。新国立劇場には06年『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、07年『タンホイザー』とヴァルトブルクの歌合戦』エリーザベトに出演している。

フリードリヒ・フォン・テルラムント: ゲルト・グロホフスキー

Friedrich von Telramund : Gerd Grochowski

ドイツ出身。これまでにバイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、モネ劇場、マドリッドのレアル劇場、ウィーン祝祭週間、エクサンプロヴァンス音楽祭など世界各地に出演。『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『トスカ』スカルピア、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『ローエングリン』テルラムント、『パルジファル』アンフォルタスとクリングゾール、『神々の黄昏』グンター、『エレクトラ』オレスト、『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師、『ルル』シェーン博士と切り裂きジャック、『ピーター・グライムズ』バルスロードなど幅広いレパートリーを持つ。2010年末シャルル・デュトワ指揮、NHK交響楽団との共演でブリテンの戦争レクイエムに出演。11年の東京・春・音楽祭で『ローエングリン』テルラムントを歌う。新国立劇場初登場。



オルトルート: スサネ・レースマーク

Ortrud : Susanne Resmark

スウェーデン出身。コペンハーゲンのデンマーク王立歌劇場のアンサンブルメンバー。ほかにもベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『仮面舞踏会』ウルリカ、『アイダ』アムネリス、『ローエングリン』オルトルート、『ラインの黄金』と『ワルキューレ』フリッカ、『ジークフリート』エルダ、『タンホイザー』ヴェーヌス、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ルサルカ』魔法使い、『影のない女』乳母、『サロメ』ヘロディアス、『エレクトラ』クリテムネストラなど幅広いレパートリーを持つ。近々ロッシニ『オリー伯爵』ラゴンドでメトロポリタン歌劇場、2011年春にはミラノ・スカラ座にそれぞれデビュー予定。新国立劇場初登場。

｜ 平成23年度公演 ｜

〈5演目14公演〉

2011.7

平成23年度

新国立劇場 こどものためのオペラ劇場

パルジファルとふしぎな聖杯

Parsifal and Magic Holy Grail | 編曲 三澤洋史

6回公演 中劇場

2011.7

平成23年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室

蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ

6回公演 オペラバレス

2011.10

平成23年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

愛の妙薬

L'elisir d'amore | G. ドニゼッティ

2回公演 尼崎市総合文化センター アルカイックホール

2011.7

平成23年度

新国立劇場 地域招聘公演 仙台オペラ協会

なりすな
鳴砂

Nari-suna | 岡崎光治

2回公演 中劇場

2011.5

尾高忠明芸術監督による特別企画

コジ・ファン・トゥツテ 〈演奏会形式〉

Così fan tutte ~CONCERT by Cover Singers~ | W.A. モーツァルト

1回公演 中劇場

パルジファルとふしぎな聖杯

Parsifal and Magic Holy Grail

中劇場 | 6回公演 | 全1幕〈日本語上演〉

リヒャルト・ワーグナー作曲『パルジファル』『ラインの黄金』による

演目選定にあたって

「新国立劇場 こどものためのオペラ劇場」は、こどもたちに優れた生の舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、芸術文化を普及して理解を深めることを目的としています。第1回は2004年夏にワーグナーのオペラ作品『ニーベルングの指環』から生まれたオリジナル作品『ジークフリートの冒険』を上演し、歌と音楽でつづられるファンタジックな世界に包まれる初めての劇場体験、喜びと興奮に目を輝かせるこどもたちで一杯になりました。その後、2006年にイタリアオペラの巨匠プッチーニのオペラ『トゥーランドット』をアレンジした『スペース・トゥーランドット』が登場。夏休み恒例企画として大好評のこどもオペラ第3弾は、ワーグナーの『パルジファル』と『ラインの黄金』をベースにした新制作『パルジファルとふしぎな聖杯』です。愛と友情をテーマとして、「主人公パルジファルが使命に目覚め、白鳥の姿をしたマグダレーナが自分にとってかけがえのない存在であることに気づき、そこから奇跡が生まれる物語は、現代社会を生きるこどもたちに、もう一度“勇気”を持って生きていくことと、自分の周りにいる貴重な友人や家族への“感謝”を呼びかけたい」と演出の三浦安浩が語っています。今年の夏休みも、こどもたちがご家族と、友達と、新国立劇場のこどものためのオペラ劇場で、貴重な体験と思い出を残していただきたいと願っています。

また、本作品はサンポートホール高松 及び兵庫県立芸術文化センターでの上演を予定しています。

あらすじ

どこかの時代の、どこかの星。モン・サルヴァート王国の神殿の奥に、王家に代々伝わる聖杯と聖なる剣が納められている。この二つを合体すると不思議なパワーが働き、王国は平和を保っている。国王ティトレルは、忠臣アンフォルタスほか聖杯の騎士たちに聖杯と槍を守らせていたが、後継者が決まらぬまま他界。ティトレルの葬儀中に執り行った聖杯の儀式に黒魔術を使う邪悪なクリンゾールが仲間を引き連れて現れ、聖なる槍を奪い去る。アンフォルタスが聖なる槍で深手を負い床に伏していると、夢の中で「清き愚か者 現れて 我らの王となる」との預言を受ける。彼は、聖なる鳥、白鳥を射落した罪を咎められたパルジファルを、預言に関係するのではないかと思い立ち、聖杯の儀式に参加させる。すると、聖杯の覆いを取るごとに奇跡が起こり、白鳥の言葉がわかるようになったパルジファルと、聖杯のパワーで傷が治った白鳥のマグダレーナの間に特別な気持ちが芽生える。天の声によって聖杯奪回の使命に目覚めたパルジファルは、世界征服を企むクリンゾールが治めるモン・ディアーヴォロに攻め込む。魔法の誘惑にあい、危機一髪のところでマグダレーナに救われたパルジファルは、聖なる槍を奪い返し、槍のパワーでアンフォルタスを救う。喜ぶ聖杯の騎士たちをよそに、マグダレーナをうっかり置き去りにしたことに気づいたパルジファルは、廃墟と化したモン・ディアーヴォロに戻る。命を失った白鳥のマグダレーナを見つけると、彼女が大切な存在であったことに気づき深く悲しむ。しかし、聖杯と聖なる槍を合体させる聖杯の儀式を執り行くと、奇蹟が起こり、白鳥のマグダレーナは瞬く間に美しい王女の姿となって甦る。周囲は花々が咲き乱れ、一同、新王パルジファルの誕生と后マグダレーナとの結婚を喜ぶ。

登場人物

- パルジファル ……清き愚か者～新しい聖杯王
- クリングゾール ……元は聖杯の騎士だが、邪悪な魔法使い
- マグダレーナ ……パルジファルが傷つけた白鳥、実は王家の娘
- アンフォルタス ……王の代行、クリングゾールとの戦いで傷を負うが、パルジファルにより癒される
- グルネマンツ ……聖杯の騎士の一人 コミックなキャラクター



公演チラシより

パルジファルとふしぎな聖杯

Parsifal and Magic Holy Grail / arranged by Misawa Hirofumi

全1幕〈日本語上演／字幕付〉

台本・編曲・指揮 三澤洋史
Libretto, Arrangement & Conductor Misawa Hirofumi

演 出 三浦安浩
Production Miura Yasuhiro

美 術 鈴木俊朗
Scenery Design Suzuki Toshiro

衣 裳 半田悦子
Costume Design Handa Etsuko

照 明 川口雅弘
Lighting Design Kawaguchi Masahiro

振 付 伊藤範子
Choreographer Ito Noriko

	〈11:30〉	〈3:00〉
パルジファル	秋谷直之	所谷直生
Parsifal	Akitani Naoyuki	Tokorodani Naoki

クリングゾール	峰 茂樹	大森いちえい
Klingsor	Mine Shigeki	Omori Ichiei

マグダレーナ	國光ともこ	渡邊早貴子
Magdalena	Kunimitsu Tokomo	Watanabe Sakiko

アンフォルタス	星野 淳	押川浩士
Amfortas	Hoshino Jun	Oshikawa Hiroshi

グルネマンツ	久保田真澄	大久保光哉
Gurnemanz	Kubota Masumi	Okubo Mitsuya

合 唱 新国立劇場こどもオペラ・ヴォーカルアンサンブル
Chorus Kids Opera Vocal Ensemble

管弦楽 新国立劇場こどもオペラ・アンサンブル
Orchestra (東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる)
Kids Opera Ensemble

2011年7/22 (金) 11:30 / 3:00

7/23 (土) 11:30 / 3:00

7/24 (日) 11:30 / 3:00

中劇場

【チケット料金 (税込)】

こども：2,100円／大人：3,150円

2011.7

平成23年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室

蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ

6回公演

2011.10

平成23年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

愛の妙薬

L'elisir d'amore | G. ドニゼッティ

2回公演

〈新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた本物の芸術を鑑賞する機会として平成10年度より毎年開催しています。高校生に、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくという新国立劇場独自のコンセプトが大変ご好評をいただいております。毎年、来場者の8割以上がオペラ鑑賞初体験、7割が作品のタイトルすら知らないというアンケート結果でしたが、幕が開くとざわついた劇場内はたちまち静まりかえり、ドラマチックなストーリー展開と情熱的な音楽にあふれるオペラの名作を体感していました。平成20年度からは新たに関西公演がスタート、3年連続で不朽の名作『蝶々夫人』を上演しました。1年間で東京公演、関西公演あわせて1万3千人を超す高校生が“本物の総合芸術”である新国立劇場のオペラ鑑賞教室でオペラデビューを果たしています。これまでに上演した作品は、『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』『カヴァレリア・ルスティカーナ』『椿姫』と、オペラの名作が並んでいます。平成23年度は、東京で4年ぶりの『蝶々夫人』、関西では2010年4月の初演で好評を博した『愛の妙薬』が登場、管弦楽には、大阪フィルハーモニー交響楽団がアルカイックホールでの新国立劇場プロダクションに新風を吹き込んでくれることでしょう。

蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラパレス | 6回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1904年2月17日 ミラノ・スカラ座

作 曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台 本：ルイジ・イルリカ／ジュゼッペ・ジャコーザ Luigi Illica/Giuseppe Giacosa

演目選定主旨・プロダクション紹介

2005年初演後、公演を重ねるたびに劇場を感動の渦に包む新国立劇場ならではの強いメッセージを持った人気プロダクションです。尼崎での関西公演では3年連続『蝶々夫人』を上演し、観客の高校生とちょうど同世代の蝶々さんが15歳で嫁ぎ、愛を貫く姿は満場の涙を誘いました。世界各地で様々な演出家が手がけている『蝶々夫人』、新国立劇場オペラは『夕鶴』に続く2作目の演出となった栗山民也は、死を以て愛を貫いた蝶々さんの世界を、舞台奥にアメリカのシンボルである星条旗がはためく空間で描いています。原作にみる西洋と東洋の主従関係が、今日の世界の構造と全く変わっていないことを暗示しています。ドラマチックな物語はイタリア・オペラの巨匠プッチーニの心に響く美しい音楽にあふれています。タイトルロールの蝶々夫人を演じる岡崎他加子、並河寿美をはじめ、新国立劇場プロダクションに出演を重ねた歌手たちによる熱演にご期待ください。

作品概説

イタリア・オペラの巨匠プッチーニの三大傑作の一つで、その音楽の美しさと、劇的内容は、オペラ初心者から熱心なファンまで世界中で愛されています。有名なアリア〈ある晴れた日に〉のほか、「さくらさくら」「越後獅子」等日本の伝統音楽や民謡の旋律が作品中にちりばめられているため、日本人にとって他のオペラとはまた一味違った魅力を感じる人気作品です。原作はアメリカの作家J. L. ロングのベストセラー小説『蝶々夫人』。これを劇作家デヴィッド・ベラスコが戯曲化してアメリカで初演、大成功を収めました。丁度オペラ『トスカ』のロンドン初演で渡英していたプッチーニがこの芝居を観劇し、英語が分からなくても深く感動したことから、このオペラ化が実現しました。タイトルロールが日本人であるため、三浦環や林康子、渡辺葉子、松本美和子といった日本人ソプラノ歌手の海外進出に大きく貢献した作品でもあります。数々の名作オペラを世に送り出したプッチーニは、自分のオペラを好まないといいながらも、「私のかわいい蝶々さんは大好きだ」と書き残しています。他にも『ラ・ボエーム』のミミや、『トゥーランドット』のリュウ、『西部の娘』のミニーなども、プッチーニが愛したヒロインと言われています。いずれもほとんどが薄幸の佳人であり、純情可憐であり、または気丈に与えられた人生を懸命に生き、愛のためには死をも恐れないタイプの女性で、プッチーニはこのヒロインたちを愛し、自作の中で心に残る美しい音楽を与えて聴衆を魅了しています。

あらすじ

時は明治の頃、長崎の海を望む丘の上で、アメリカ海軍士官のピンカートンは、結婚斡旋人ゴローの仲介で15歳の芸者、蝶々さんを身請けする。純情な蝶々さんに対してピンカートンは日本に滞在する間だけの軽い気持ちで結婚式を挙げ、長崎駐在のアメリカ領事シャープレスに不誠実だとたしなめられる。やがてピンカートンは帰国、彼との間にできた3歳の息子と女中のスズキは蝶々さんと3人で彼の帰りを待ちわびている。「ある晴れた日にピンカートンはきっと帰ってくる」とその日を夢見る蝶々さんは、ゴローが新しい結婚相手を薦めても耳も貸さない。一方、シャープレスはピンカートンがアメリカで正式に結婚したことを知るが、蝶々さんにその真実を語ることはできない。そして運命の時がやってくる。ピンカートンは、妻ケートをつれて長崎に降り立ち、思い出の丘の上の家を訪れる。シャープレスより、蝶々さんが待ち続けていたことを聞き、居たたまれなくなってその場から走り去る。全てを悟った蝶々さんは、我が子をケートに渡す決断をすると、父の形見の短刀で自害して果てる。



2005年公演より

G. プッチーニ

蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	菊池彦典	
Conductor	Kikuchi Yoshinori	
演出……………	栗山民也	
Production	Kuriyama Tamiya	
美術……………	島 次郎	
Scenery Design	Shima Jiro	
衣裳……………	前田文子	
Costume Design	Maeda Ayako	
照明……………	勝柴次朗	
Lighting Design	Katsushiba Jiro	
	〈11日・13日・15日〉	〈12日・14日・16日〉
蝶々夫人……………	岡崎他加子	並河寿美
Madama Butterfly	Okazaki Takako	Namikawa Hisami
ピンカートン……………	村上敏明	樋口達哉
Pinkerton	Murakami Toshiaki	Higuchi Tatsuya
シャープレス……………	折江忠道	成田博之
Sharpless	Orie Tadamichi	Narita Hiroyuki
スズキ……………	大林智子	山下牧子
Suzuki	Obayashi Tomoko	Yamashita Makiko
ゴロー……………	高橋 淳	大野光彦
Goro	Takahashi Jun	Ono Mitsuhiko
ボンゾ……………	島村武男	若林 勉
Lo zio Bonzo	Shimamura Takeo	Wakabayashi Tsutomu
神 官……………	佐藤勝司	黒田 諭
Il commissario imperiale	Sato Shoji	Kuroda Satoshi
ヤマドリ……………	松本 進	小林由樹
Il principe Yamadori	Matsumoto Susumu	Kobayashi Yoshiki
ケート……………	渡辺玲美	前田祐佳
Kate Pinkerton	Watanabe Remi	Maeda Yuka
合 唱……………	新国立劇場合唱団	
Chorus	New National Theatre Chorus	
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団	
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra	

2011年7/11（月）1：00 7/14（木）1：00
7/12（火）1：00 7/15（金）1：00
7/13（水）1：00 7/16（土）1：00
オペラパレス

【チケット料金（税込）】
全席指定：2,100 円（高校生のみ）
当日料金：2,100 円（高校生以下）／ 4,200 円（一般・大人）

愛の妙薬

L'elisir d'amore

尼崎市総合文化センター アルカイックホール | 2回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1832 年 5 月 12 日 ミラノ、テアトロ・カノッピアーナ

作 曲：ガエターノ・ドニゼッティ Gaetano Donizetti (1797-1848)

台 本：フェリーチェ・ロマーニ Felice Romani

演目選定主旨・プロダクション紹介

オペラ・ブッフアの喜劇の世界に、ロマンチックな哀愁のメロディを盛り込んだことで多くの人の共感を勝ち取った『愛の妙薬』。演出のチャーザレ・リエヴィは、本の一節から飛び出して物語をハッピーエンドに導く“ほれ薬”の顛末を、ヴィヴィッドな色彩や、実物大の飛行機などを登場させながら生き生きと描いています。気になるアノ子のハートを何とかキャッチしたい男の子と、眼中になかったはずの男の子が実はかけがえのない人だと気づく女の子のラブ・コメディは、まさに高校生のオペラデビューにうってつけの名作です。純粋な主人公ネモリーノの判りやすい人物像に加えて、ヒロインであるアディーナの賢さが、メロディの力で素直に伝わることでしょう。名アリア〈人知れぬ涙〉が聴きどころになるのは勿論のこと、敵役の軍曹ベルコーレの明るい持ち味、ドゥルカマーラの軽妙なキャラクターなどドニゼッティの冴えを実感する音楽が随所に散りばめられ、合唱のきびきびした歌声も舞台を大いに盛り上げます。

あらすじ

村人たちが集い、農場の娘アディーナが本を読んでいる。青年ネモリーノは彼女に恋している。軍曹のベルコーレが兵隊と共に登場、アディーナに目を留める。ネモリーノも彼女を呼び止めるがつかなくされる。偽医者のだゥルカマーラがネモリーノに「愛の妙薬」と偽ってワインを売りつけ、一日後に効き目が出ると騙す。軍曹が戻り、指令で別の土地に移動することになったから、アディーナに「今日中に結婚しよう」と告げる。それでは妙薬が効かないと焦ったネモリーノはもう一日待ってくれと頼むが、ベルコーレが彼を罵る。アディーナは宴会に皆を招き、ネモリーノは独り、偽医者のおかげを求めて叫ぶ。アディーナと軍曹の結婚を控えた祝いの席。しかし彼女は、姿の見えないネモリーノを気にする。ネモリーノは妙薬をもう一壇買う金を求めて、ベルコーレに入隊を志願する。そこにジャンネッタが現れ、「ネモリーノのおじさんが莫大な遺産を残して亡くなった」と噂する。そこにやってきたネモリーノを娘たちが急に持ち上げるので、彼は薬の効き目を実感する。アディーナはネモリーノの心呼び戻そうとし、彼女のその姿を目にしたネモリーノは、名アリア〈人知れぬ涙〉で彼女の心のうちを悟ったと歌う。アディーナは、ベルコーレから買い戻した入隊契約書をネモリーノに差し出すが、彼は「愛してもらえないのなら兵隊になって死にたい」と叫ぶ。二人は本心を告げあう。ベルコーレが登場、潔くアディーナを諦める。村を去るだゥルカマーラを、一同がにぎやかに見送る。



2010年公演より

G.ドニゼッティ

愛の妙薬

L'elisir d'amore / Gaetano Donizetti

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………石坂 宏
Conductor Ishizaka Hiroshi

演出……………チェーザレ・リエヴィ
Production Cesare Lievi

美術……………ルイジ・ペーレゴ
Scenery Design Luigi Perego

衣裳……………マリーナ・ルクサルド
Costume Design Marina Luxardo

照明……………立田雄士
Lighting Design Tatsuta Yuji

アディーナ……………臼木あい
Adina Usuki Ai

ネモリーノ……………小原啓楼
Nemorino Ohara Keiroh

ベルコーレ……………成田博之
Belcore Narita Hiroyuki

ドゥルカマーラ……………鹿野由之
Dulcamara Shikano Yoshiyuki

ジャンネッタ……………九嶋香奈枝
Giannetta Kushima Kanae

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………大阪フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Osaka Philharmonic Orchestra

2011年10/26（水）2：00

10/28（金）1：00

尼崎市総合文化センター アルカイックホール

【チケット料金（税込）】

全席指定：2,100 円（高校生のみ）

当日料金：2,100 円（高校生以下）／ 4,200 円（一般大人）

な り す な
鳴砂

Nari-suna

中劇場 | 2回公演 | 全2幕 〈日本語上演〉

初 演：1986年10月3日 宮城県民会館（現：東京エレクトロンホール宮城）

原 作：菅原 遯

作曲・脚色：岡崎光治

演目選定にあたって

全国各地の優れた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」。第1回目の平成17年度から7回目となる平成23年度公演には、仙台オペラ協会を招聘いたします。演目は1976年に発足した協会が10周年を記念して委嘱上演した『鳴砂』（作曲：岡崎光治）の改訂再演です。この作品は、東北地方のある漁村を舞台に繰り広げられる男女の悲恋物語ですが、同時に人間の欲望とエゴにより、美しい自然の象徴でもある「鳴砂の浜」が汚され鳴らなくなってしまったことを、私たちに自然環境保護への警鐘として投げかけています。

仙台オペラ協会は、毎年秋の本公演の他、協会独自の小編成オペラやガラコンサートで構成された「春のインテルメッツォ」、仙台市の芸術祭や県内の地方公演に参加することによって、地域の音楽、芸術振興に寄与し、多くの人々に喜ばれ、愛される活動を続けています。現在は、佐藤淳一を芸術監督に置き、2010年9月19日、20日に本拠地仙台（東京エレクトロンホール宮城）にて第35回公演『鳴砂』を上演。2011年7月の新国立劇場公演では、更なる磨きをかけた作品が上演されることでしょう。仙台フィルハーモニー管弦楽団も新国立劇場初登場となります。

あらすじ

とある小さな漁村。美しい白い砂浜は、踏めば歌う鳴砂の浜。しかし村は貧しく、沖で難破する船の積み荷が流れ着いたものを浜人たちは「産土(うぶすな)の神のくだされもの」と呼び、暮らしの糧としなければならなかった。毎年この村を嵐が二百十日の日を前に、村では風を呼ぶ風祭りの中で嵐を占う”虎舞”が行われる。盲目の娘イサゴは、海へ出たままか帰ってこないミナジに思いを募らせ、大好きな鳴砂のかすかなささやきを聞きながら待ち続けていた。イサゴの妹ナギサやミナジの養父母ジサクとトマはイサゴの届かぬ想いに心を痛めつつ見守っている。そこへ、二百十日の大嵐で難破した大きな船とともにミナジが帰ってくる。山伏がお祓いをしていると突然、船が3回青く光り、青い光に包まれた女が現れる。この妖しく神秘的な女は「エテル」と名乗る。ミナジや男たちはエテルに惹かれ、いぶかしむ女たちは拒否反応を示し、エテルを村から追い出そうとする。嘆き悲しみ常軌を逸するイサゴに村の女たちの同情があつまり、いっそうエテルと青い灯への反感がつのる。気が付くと、村は敵対する男と女で真っ二つに割れていた。心を通わせるミナジとエテルに憎しみを抱き、半狂乱となったイサゴは夜叉の如く長刀を振り回し、青い灯を叩き落とす。エテルは悲鳴とともに姿を消し、ミナジはエテルを追って船から転落する。争いの果てに、命知らずの勇者ミナジを失い、難破船の廃材が散らばる浜は荒れ、もう鳴砂は歌わない。



仙台オペラ協会「鳴砂」(2010年 於:東京エレクトロンホール宮城)

岡崎光治

鳴砂

Nari-suna / Okazaki Mitsuharu

全2幕〈日本語上演〉

指揮……………山下一史
Conductor Yamashita Kazufumi

演出……………岡崎光治
Production Okazaki Mitsuharu

美術……………今野芳明
Scenery Design Konno Yoshiaki

照明……………斉藤孝師
Lighting Design Saito Takashi

衣裳……………庄子真美
Costume Design Shoji Mami

ミナジ……………佐藤淳一
Minaji Sato Junichi

イサゴ……………佐藤順子
Isago Sato Junko

ナギサ……………工藤留理子
Nagisa Kudo Ruriko

エテル……………横山いずみ
Eteru Yokoyama Izumi

ジサク……………鈴木 誠
Jisaku Suzuki Makoto

トマ……………遠藤 典子
Toma Endo Noriko

浜 長……………高橋正典
Hamaosa Takahashi Masanori

山 伏……………野崎貴男
Jisaku Nozaki Takao

黙役(虎舞)……………紉江道子モダンバレエ研究所
Silent role Toramai Michiko Momie Modern Ballet Laboratory

合 唱……………仙台オペラ協会合唱団／仙台放送合唱団／

NHK 仙台少年少女合唱隊

管弦楽……………仙台フィルハーモニー管弦楽団
Orchestra Sendai Philharmonic Orchestra

2011年7/30(土) 3:00

7/31(日) 3:00

中劇場

【チケット料金(税込)】

S : 9,450円・A : 7,350円・B : 5,250円・C : 3,150円

【前売開始】2011.4/1(金)

コジ・ファン・トゥッテ

〈演奏会形式〉

特別企画
Special project

Così fan tutte ~CONCERT by Cover Singers~

中劇場 | 1回公演 | 全2幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1790年1月26日 ウィーン・ブルク劇場

作 曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台 本：ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

演目選定にあたって

新国立劇場オペラ公演には、出演するソリストの全ての役柄にカヴァー歌手がキャスティングされています。カヴァー歌手は、本役歌手と同様、事前の勉強をし、稽古から公演までいかなるアクシデントにも対応できるよう本役歌手の控えとしてスタンバイしますが、本役歌手にトラブルがない限り、舞台に立つことはありません。日本のオペラハウスで、日本人歌手の活躍の場は必要不可欠と考える尾高芸術監督は、日本を代表するオペラ歌手たちが、カヴァー歌手として新国立劇場オペラ公演を支えていること、そして、日本人歌手たちの実力を、観客の皆様にも知っていただくために、2011年5月の『コジ・ファン・トゥッテ』公演カヴァー歌手による歌唱の場を演奏会形式で企画しました。副題を「恋人たちの学校」というこの作品、異性に対して感情のおもむくままにしていると痛い目にあいますから、理性をお忘れなくという“教育的寓話”とも呼べる作品として誕生しました。このモーツァルトの美しいアンサンブル・オペラには、6人のソリストがみな、そろって高いレベルで優れたアンサンブルを聴かせることを求められます。尾高忠明芸術監督による特別企画『コジ・ファン・トゥッテ』(演奏会形式)にご期待ください。

あらすじ

18世紀のナポリ。士官のグリエルモとフェルランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベッラとそれぞれ婚約している。老哲学者ドン・アルフォンソにそそのかされ、ふたりは恋人の貞操観念をめぐって賭をすることになる。戦場に赴くことになったふりをして偽りの別れを演じた後、嘆き悲しむ姉妹を女中のデスピーナがたしなめていると、変装したグリエルモとフェルランドが登場し、あの手この手で姉妹を口説く。姉妹の心は次第に揺らぎ、ドラベッラが姉の婚約者グリエルモに、さらに「自分の貞操は岩のように固い」と言っていたフィオルディリージもフェルランドの口説きに陥落してしまう。新しい2組のカップルの結婚式が行われるところに、軍隊(婚約者たち)の帰還が告げられる。姉妹は恋人たちに死ぬ覚悟で罪を告白すると、ドン・アルフォンソが芝居の種明かしをし、婚約者たちはめでたく元の鞘におさまる。

W.A. モーツァルト

コジ・ファン・トゥツテ 〈演奏会形式〉

Così fan tutte ~CONCERT~ / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………石坂 宏
Conductor Ishizaka Hiroshi

フィオルディリージ ……佐藤康子
Fiordiligi Sato Yasuko

ドラベッラ ……………小野和歌子
Dorabella Ono Wakako

デスピーナ ……………九嶋香奈枝
Despina Kushima Kanae

フェルランド ……………鈴木 准
Ferrando Suzuki Jun

グリエルモ ……………吉川健一
Guglielmo Yoshikawa Kenichi

ドン・アルフォンソ………佐藤泰弘
Don Alfonso Sato Yasuhiro

オーケストラ ……………東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽アンサンブル
Orchestra String Ensemble by Tokyo Philharmonic Orchestra member

2011年5/15（日）2：00

中劇場

【チケット料金（税込）】

A：5,250円・B：3,150円

【前売開始】2011.2/12（土）

OPERA

公演一覧

開場記念公演～2010/2011シーズン

■ = レパートリー作品

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	97.10/10
	ローエングリン	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	97.11/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼッフィレッリ	98.1/15
1998/ 1999	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	98.4/8
	魔笛	W.A.モーツァルト	大野和士	ミハエル・ハンペ	98.5/6
	ナブッコ	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	98.6/18
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	98.9/19
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ビエールフランチェスコ・マエストリーニ	98.10/9
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	98.11/27
	カルメン	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	99.1/19
	天守物語	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	99.2/13
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	99.4/21
	罪と罰	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	99.6/18
1999/ 2000	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	バオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	99.9/21
	マノン・レスコー	G.プッチーニ	菊池彦典	ビエールフランチェスコ・マエストリーニ	99.11/6
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	99.12/18
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	00.1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳／ビエールフランチェスコ・マエストリーニ	00.2/20
	沈黙	松村禎三	星出 豊	中村敬一	00.3/16
	サロメ	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エヴァーディング	00.4/11
	ドン・キホーテ	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	00.5/7
	リゴレット	G.ヴェルディ	レナート・バルンボ	アルベルト・ファッシーニ	00.6/11
	トスカ	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	00.9/21
2000/ 2001	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミハエル・ハンペ	00.10/10
	エウゲニ・オネーギン	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ボクロフスキー／ヴェラ・カルパチョフ	00.10/30
	青ひげ公の城	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	00.11/24
	夕鶴	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	00.12/2
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	01.1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロリ	アルベルト・ファッシーニ	01.2/5
	ラインの黄金	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	01.3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	01.5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	01.6/7
	マノン	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ビエール・ボネル	01.7/5
2001/ 2002	トゥーランドット	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	01.9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	バオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	01.11/1
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	01.11/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	01.12/6
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	02.1/10
	忠臣蔵	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	02.1/25
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	02.2/21
	ワルキューレ	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	02.3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エヴァーディング	02.5/1
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	02.5/2
2002/ 2003	カルメン	G.ビゼー	ジャック・デラコト	マウリツィオ・ディ・マッティアー	02.6/7
	椿姫	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	02.9/5
	ルチア	G.ドニゼッティ	バオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァリーニ	02.10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳	02.10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッラ	アルベルト・ファッシーニ	02.11/21
	ナクソス島のアリアドネ	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	02.12/12
	光	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	03.1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	03.1/31
	ジークフリート	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	03.3/27
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳	03.4/19
	オテロ	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	03.6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	03.9/14

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2003/ 2004	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	03.10/10
	トスカ	G. プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	03.11/9
	ホフマン物語	G. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	03.11/28
	鳴神／俊寛	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	04.1/30
	スペインの燦き	M. ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	04.2/18
	サロメ	R. シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファアーディンク	04.2/27
	神々の黄昏	R. ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	04.3/26
	マクベス	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	04.5/13
	ファルススタッフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	04.6/25
	カルメン	G. ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティアー	04.6/28
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	P. マスカーニ／R. レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	04.9/9
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	井上道義	栗國 淳	04.9/25
	エレクトラ	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	04.11/11
	椿姫	G. ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	04.11/22
	マクベス	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	05.1/17
	ルル	A. ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	05.2/8
	おさんー「心中天網島」より	久保摩耶子	神田慶一	栗國 淳	05.2/25
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	05.3/21
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	05.4/7
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	05.5/28
	蝶々夫人	G. プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	05.6/24
	ニュルンベルクのマイスター・ジンガー	R. ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	05.9/14
2005/ 2006	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	05.10/14
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	05.11/20
	ホフマン物語	J. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	05.11/27
	魔笛	W.A. モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	06.1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	06.2/4
	愛怨	三木 稔	大友直人	恵川智美	06.2/17
	運命の力	G. ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	06.3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	P. マスカーニ／R. レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイージ	グリシャ・アサガロフ	06.4/5
	こうもり	J. シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	06.6/14
	ドン・カルロ	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	06.9/7
2006/ 2007	イドメネオ	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	06.10/20
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	06.11/30
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	06.12/1
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	07.2/25
	運命の力	G. ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチャーニ	エミリオ・サージ	07.3/15
	蝶々夫人	G. プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	07.3/22
	西部の娘	G. プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	07.4/15
	ばらの騎士	R. シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	07.6/6
	ファルススタッフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	07.6/13
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R. ワーグナー	フィリップ・オーガン	ハンス＝ペーター・レーマン	07.10/8
2007/ 2008	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	07.10/18
	カルメン	G. ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	07.11/25
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	マウリツィオ・バルバチャーニ	栗國 淳	08.1/20
	サロメ	R. シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファアーディング	08.2/3
	黒船 一夜明け	山田耕祐	若杉 弘	栗山昌良	08.2/22
	アイーダ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレッリ	08.3/10
	魔弾の射手	C.M.v. ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	08.4/10
	軍人たち	B.A. ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	08.5/5
	椿姫	G. ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	08.6/5

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2008/ 2009	トゥーランドット	G. プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	08.10/1
	リゴレット	G. ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	08.10/25
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	08.12/5
	蝶々夫人	G. プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	09.1/12
	こもり	J. シュトラウスII 世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	09.1/27
	ラインの黄金	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.3/7
	ワルキューレ	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.4/3
	ムツェンスク郡のマクベス夫人	D. ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	09.5/1
	チェネントラ	G. ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ボネル	09.6/7
	修禅寺物語	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	09.6/25
2009/ 2010	オテロ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	09.9/20
	魔笛	W.A. モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミハエル・ハンペ	09.10/29
	ヴォツェック	A. ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	09.11/18
	トスカ	G. プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	09.12/2
	ジークフリート	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.2/11
	神々の黄昏	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.3/18
	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	10.4/15
	影のない女	R. シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	10.5/20
	カルメン	G. ビゼー	マウリツィオ・バルバチャーニ	鶴山 仁	10.6/10
	鹿鳴館	池辺晋一郎	沼尻竜彦	鶴山 仁	10.6/24
2010/ 2011	アラベッラ	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	10.10/2
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	ミハエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	10.10/10
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	10.11/12
	トリスタンとイゾルデ	R. ワグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	10.12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	11.2/4
	椿姫	G. ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	11.2/14
	マノン・レスコー	G. プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	11.3/15
	ばらの騎士	R. シュトラウス	クリスティアン・アルミンク	ジョナサン・ミラー	11.4/7
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	パオロ・カリニャーニ	ダミアノ・ミキエレット	11.5/29
	蝶々夫人	G. プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	11.6/6